

POETRY AND LYRICS
MY SHISHU

隔月刊 マイ詩集

隔月刊 POETRY & LYRICS
MY 詩集
テーマ特集 春の夢 / Stay with me
2018 5月号 (VOL. 421)

テーマ作品特集

Dream in spring

春の夢 / Stay with me

5月号



春がやってきたよ

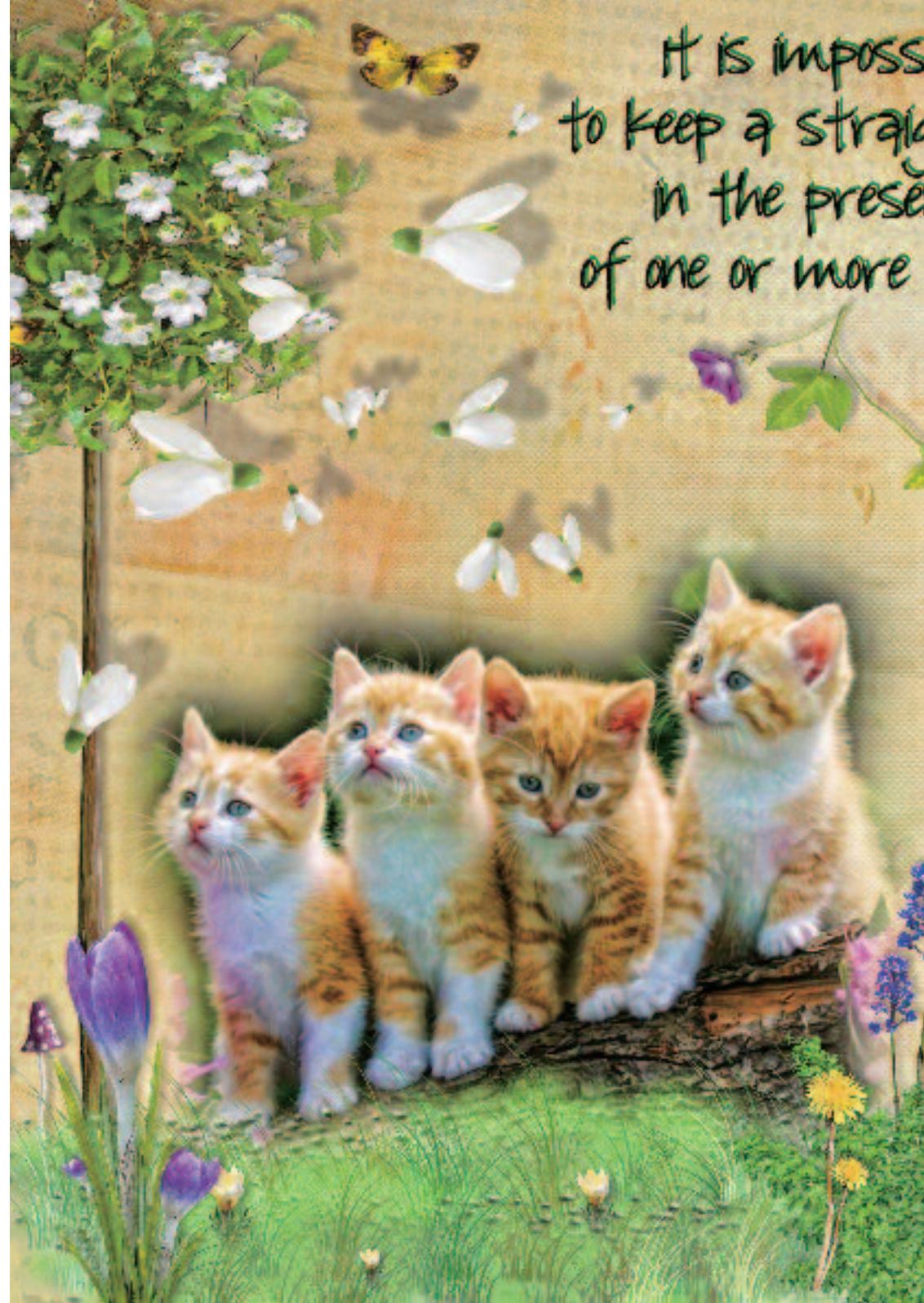
ふじお

春がやってきたよ
ポカポカ陽気で
背伸びしたいな
緑川の河川敷
色鮮やかに
菜の花が 咲き乱れ
イエローワールド

春がやってきたよ
らんらん心はずむ
解放感いっぱい
いつもの散歩コース
緑が丘公園は
お待ちかね サクラ満開
ピンクワールド

春がやってきたよ
そよ吹く風 気持ちいい
まるで夢ごごち
あたり一面 埋め尽くす
見渡すかぎり
可愛く変身 れんげそう
パープルワールド

ねえ春風さん お願い
今年も幸せを
たくさん運んでおくれ



マ イ 詩 集
POETRY and LYRICS

2018 5月号 VOL.421
CONTENTS

テーマ作品特集 Stay with me……………31

珠夢湖 聖川 泉
月鏡レイ 四谷 文
ふじお 小田ともひさ
Sho-T 坂井まゆ子

Poetris 2018.2.25→2018.3.25 …自由詩…54

随想録 夢をつかさどる女神 ……………冬木りた…64

MY詩集2月号(420号)掲載作品 感想録

ファンレター BOX ……………75

RE: FAVORITE WORKS …返歌・返詩…80

MEMBERS INDEX ……詩と作詞・作者別索引…94

次のMY詩集 8月号(422号)

原稿メ切……6月25日

バックナンバー・リスト……P.92 - 93

個人作品特集号申込案内……P.90 デモCD制作 INFO&既刊案内……P.53

同人専用INFO……P.91 原稿募集一覧……P.96

MY詩集同人・入会のご案内……P.96

テーマ作品特集 春の夢 …………… 2

ふじお 涼木由真 坂井まゆ子 小田ともひさ
川島理生子 神崎 進 ちくちうしめ
闇 耀映 現世乱歩 いかり あさこ

Sho-T 小林智恵 雪した桜 絵美里☆鳥星

詩作談話室 あとりえぼえむ ……………熊谷ゆき…22

Thirty-one syllables ……………短歌／俳句…24

Lyrics 2018.2.25→2018.3.25 ……………作 詞…31

作詞ワークショップ ……………有海治雄…40

SONGWRITING BASIC……作詞の基本…51

表紙 …………… 蛭田賢一 Kenichi Hiruta

〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18 MY詩集 編集部

Phone&Fax 048-241-7750

編集発行人・熊谷ゆき Yuki Kumagai

editorsroom5@my-shishu.com

http://my-shishu.com



春うらら

小田ともひさ

春のうららに さそわれて
 花の下臥せ 決め込んだ
 霞みの空から 漏れくる光
 時おり吹きくる さやかな風
 すぐにさそわれ 別世界

終わったばかりの 冬五輪
 世界中の アスリート
 熱い思いを 胸に秘め
 力を出しきり 笑顔と涙
 最後に手を取り 抱き合った

祭典は終わり 閉会式
 国 人種の 差別なく
 歌に踊りに 笑顔に歓喜
 平和の渦は 世界をおおった
 新たな時代が 始まった

春のうららに さそわれて
 満開の下で 見た夢は
 この前終わった 冬五輪
 アスリートたちの 熱い思い
 必ず来るだろう 平和な世界



Cats never strike a pose that
isn't photogenic.

春の夢でも

涼木由真

恨まないで 私のこと
ひと目惚れ 本気なのよ
ごめんなさいね 貴女から
奪うつもりじゃ なかったの

雪の夜の 田舎の駅
最終電車 待っていたの
ふたりしか いなかった
それだけで それだけで……

つかのまの 春の夢でも
かまわない
ああ 春の夢でも

見つめた時間の
長さじゃないのよ
それが 恋

恨まないで 私のこと
あいつはね 甲斐性なし
もったいないわ 貴女には
もっといい人 現われる

野原にしか 咲けない花
踏まれてきた ただの雑草
ふたりとも 貧乏なの
それでもね それでもね……

つかのまの 春の夢でも
かまわない
ああ 春の夢でも

尽くした時間の
長さじゃないのよ
それが 恋

Each

photograph

is a

story

captured in a
single moment.

春の日のティールーム

坂井まゆ子

二月の半ばの お客様
熱いココアに マシュマロを
溶かして飲んでる 女の子
ひとりでため息 ティールーム
渡しそびれた チョコレート
かばんの中で 眠ってる

二月の雪は ぼたん雪
はかなく溶ける 春の夢

三月はじめの お客様
お砂糖入れずに カフェオレを
だまって飲んでる 男の子
ひとりで思案の ティールーム
渡しそびれた 第二ボタン
卒業式の 帰り道

三月の風 南風
切なく香る 春の夢

四月の雨の日 お客様
ふたつの注文 ワインゼリー
あの女の子と 男の子
ふたりが向き合う ティールーム
偶然出会って 雨宿り
駅前の店で ティーターム

四月の雨が 降り注ぐ
いま花ひらく 春の夢

春を待つ

川島理生子

梅のつぼみが膨らんで
風がほんのりやさしくなって
陽だまりがときどきかくれんぼ

土の中で眠っていた いのちの種にも
少しずつ 少しずつ
お日様の笑顔が届きます

ほらほら そろそろ起きなさい
瞼を開けて お外を見て
早くしないと遅れますよ

土の中から木 木の枝からも
沢山の笑顔がこぼれるのは
あと少し……

花の笑顔を心待ちに
厳しい冬の眠りから明けて
明るい春を 夢見ます

花の精

神崎 進

春の夜の闇に漂う香りに惹かれ
行き着いたのは町外れの屋敷跡
庭では満開の白梅がほのかに闇を照らし
耳を澄ませば
懐かしいささやきが聞こえる

思わず庭に足を踏み入れると
妖しく薫る梅の木は
時の彼方で愛したあの美しい鷺に姿を変え
手を差し伸べる男に背を向けて
まばゆい翼を広げ夜空に飛び立ってゆく

追いつかり掴んだ白鷺の長い脚
振り返って見つめ合う目と目
一瞬

時間が止まり
再び動き出したとき
手をすり抜けて白鷺は舞い上がり
夜空からひらひらと落ちてくる
白い花びら
手の中に残った
甘く胸に残る梅の香の

男女川源流

ちくち うしめ

好きな人がいる
好きとは言えないまま
桜の陰で思っている
遠くから思っている

静かな山道

オオイヌノフグリが咲いている
青い空を見上げ咲いている
チラチラと風に揺れている

残雪を踏み進む

何処かに置いてきた
涙の様な露が落ちて
みなの
男女川に溺れる

紅く咲くのは山つつじ
春と一緒に山を登る
好きとは言えないまま
好きな人がいる

温む春

いかり あさこ

雪解けに顔出すふきのとう
やけに黄色い福寿草
芽吹く日々
歩き始めた小ちゃんな長靴
水溜まり飛ぶはしやぎ声
キラキラ眩しい川面に映る春山
大声で笑う君の横顔見つめる入学式
緊張振り払う元気いっぱい挨拶
見知らぬ街並み歩く道

明日を追いかけて
静かに暮れ行く
あなたを包む桜色の夕焼けは
古代からの贈り物

そこここに

夢に挑む

温む春

春 春 春 春

温む春

春ひと雫

現世乱歩



I 花

折れた鉄パイプ

3ミリメートルほどの

管の内に

白い花が咲いていた

うっすら溜まった土の内に

白い花が咲いていた

「こんなところ……」

息を飲む私をよそに

ひょつひょつと風をよそでらた

今でも 時折

瞼の奥で ふらりと咲き

風にそよぶだけで

私をやさしく叱る花

II 鳥

少女は鳥を見ている
じっと見ている

やわらかな胸のに毛をらくらまじ

今か 今か 風が来た 今だっ

鳥が翔ぶ

少女の視線を 引っ張って 引っ張って

思いつきがちぎって

鳥は 翔んでいってしまった

なぜ 鳥はあんなにもまっすぐ翔んでゆけるの

なぜ 息が詰まるほどの私の想いを

簡単にさらってしまえるの

それは 恐ろしいかな くやしうかな

からっぽになるかな

少女は空を見ていた

鳥が はるか点となって消えた空を

そして ぼつん つぶやいた

「鳥と男の子って

ちよっぴり 似てる……な」



III 風

ぴんと張った青い空の下で
私 気づいてしまった

シャボン玉は
ゆらゆら
歪んでいるほうが
たくさんの虹が見える
……泣きたいほどに それは真実

その時
私の 体のどこかで シャボン玉
パチンと壊れた

見知らぬ風が吹いてくる
それは 残酷な 風なのに
ハッとするとほど新鮮だった

VI 月

「突っている自分の心なんか見たくないー」
だけで
きれいで きゃしゃなナイフ……
そんな三日月に
すごく あごがれたりもするの「

天の邪鬼な子供の私へ
月は笑って こう答えてくれた

「月だって
すっと丸いままだったら
ただの鏡さ
空に架かっているのが
ちよっと珍しいだけ
そんな鏡になっってしまうだろうね」

それは 私が
月を「おじ様」と呼び
おしゃべりの相手をしてもらっていた十三歳

『絵のない絵本』が好きだった頃

テーマ作品（作詞・自由詩・短歌・俳句・物語・エッセイ他）募集

マイ詩集同人の皆さまへ——次号のテーマ特集のページに発表します
P96で募集している自由テーマの作品とは別に発表できます

ふるさとの夏

作品形式の募集内容に合わせて書いて下さい

作品タイトルには、募集テーマ名をそのまま使わないで、オリジナリティを出しましょう（部分的な使用はOK）

自由詩・作詞・短歌・物語

- ・自由詩……20字×25行以内（題名作者名含む）
- ・作詞……20字×30行以内（題名作者名含む）
- ・短歌……2首以上の連作
- ・俳句……2句以上の連作
- ・連作自由詩（三部作／四部作）1編20字×25行以内
総題のほかに各パートの題名もつけて下さい。
1編ごとに完結したもので、全編を通しても
ひとつの作品として味わえるものとします。
- ・詩物語（長編自由詩）……20字×50行以内
ストーリーとして完結しているものに限りです。

ジェラシー

自由詩・作詞・短歌・物語

- ・自由詩……20字×25行以内（題名作者名含む）
- ・作詞……20字×30行以内（題名作者名含む）
- ・短歌……2首以上の連作
- ・俳句……2句以上の連作
- ・連作自由詩（三部作／四部作）1編20字×25行以内
総題のほかに各パートの題名もつけて下さい。
1編ごとに完結したもので、全編を通しても
ひとつの作品として味わえるものとします。
- ・詩物語（長編自由詩）……20字×50行以内
ストーリーとして完結しているものに限りです。

原稿用紙1枚目の右上に、4つの必要事項を明記して下さい。

【1】○月号発表用 【2】同人番号 【3】本名

【4】テーマ名と作品形式（テーマ○○作詞／テーマ○○短歌／テーマ○○連作自由詩等）

受付期間 5月25日 - 6月25日（掲載：7月下旬 - 8月上旬発行の8月号）

送り先 〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集8月号【テーマ名】【作品形式】発表係
【作品形式】には「作詞」「短歌」「俳句」「連作自由詩」等を入れて下さい。

小説・エッセイ等

次号発表用の詩・作詞・短歌（自由テーマまたは募集テーマ）のいずれかを送稿済みの方を
対象とします。小説・エッセイ等の長文テーマ作品は、選考による掲載となります。

- 内 容 ・募集中のテーマ【ふるさとの夏】【ジェラシー】に該当するもの
- 作品形式 ・随筆・エッセイ……400字詰原稿用紙4枚～5枚前後
・感想文・評論文……400字詰原稿用紙5枚～10枚前後
文学、美術、音楽、映画、演劇等を対象にしたもの
別紙で対象作品のあらすじや説明等を400字以内で添付
- ・小説・童話等の創作…400字詰原稿用紙10枚～50枚前後
詩歌（詩・作詞・短歌）と散文の組み合わせも可
別紙で主な登場人物紹介とあらすじ400字以内を添付
- 用 紙 ・A4判400字詰原稿用紙 または A4判ワープロ印字用紙（1枚に20字×20字）
・すべての用紙の右上に、通し番号を明記。
・メール送稿では別途にワープロ印字用紙の郵送をお願いする場合があります。
・原稿返却希望者は、返信切手貼付宛名記入済みの封筒を同封して下さい。
- 同人番号・本名・テーマ名・作品形式を、1枚目欄外に明記。

受付期間 5月25日 - 6月25日（掲載：7月下旬 - 8月上旬発行の8月号）

送り先 〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集8月号【テーマ名】【作品形式】発表係
【作品形式】には「エッセイ」「感想文」「小説」「童話」等を入れて下さい。

詩物語（長編自由詩・三部作等）作品募集

P96で募集している自由詩とは別に発表できます。

詩物語：物語を伝える詩。一般には物語詩として北歐神話の「エッダ」、

E. A. ポー「大鴉」などの長編が著名な作品です。

ここでは、ストーリーとして完結しているセミロングの自由詩を募集します。



- 内 容 フィクション・ノンフィクション不問、課題テーマ以外も可。
- 長 さ 20字×40行～50行 または 20字×80行～100行
タイトル、作者名を含みます。
- 三部作／四部作 1編の長さ20字×25行以内
1編ごとに完結し全体を通して1つの作品としてまとまったもの。
総題のほかに各パートの題名もつけて下さい。
- 用 紙 A4判400字詰原稿用紙
またはワープロ印字用紙（文字サイズ18ポイント以上）
用紙右上の余白にマイ詩集の同人番号を明記
- 受付期間 5月25日 - 6月25日（掲載：7月下旬 - 8月上旬発行の8月号）
- 送 り 先 〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集8月号 詩物語係
メ ー ル 登録アカウント@my-shishu.com 題名：8月号詩物語係

小田ともひささん「名言」(P.23)。偶然ですがわたしにも、この詩の本文まるごと、まったく同じという経験があります。一度聞いたなら、ずっとずっと長く心に残っているような言葉ですね。

名言というタイトルからの連想ですが、北野麟朋さん「数学的恋愛」(P.97)。三行というとても短い詩なのですが、全体が名言というより、格言という感じですね。

短いというところでは、中窪利周さん「恋歌」(P.58)そうですね。趣が深く、読むたびに心のなかに長く長く残っていて、わたしの個人的な思い出のどこかにもつながっている……。

こういった短い作品に限ったことではなく、みなさまの作品を読みながら、いつも思うことですが、マイ詩集はどの号にも、心に残るフレーズというのがたくさんありますね。

読むひとそれぞれの人生経験によって、同じフレーズでも、温度差があったりするような、そんな気もします。でも、誰もが本当に書きたいことがあるから書いているのですから、これを読む誰かの心にどれくらい響くとかを気にしないで、書きたいことを書ける……ここは、そういう場所ではないと思っています。

短くても詩。長くても詩。今回はちょっと長めの詩についても触れておきましょうか。

サラ寛美さん「ひとり旅」(P.60)。これだけの長さになっただけなのにその、読みこたえのある内容ですね。〈若いながらもお坊さんの般若心経を唱える声の

響きが／今まで聞いたお経と違う。感動する……なんとも実感深いフレーズで、ツアーの方々といっしょに聞き入っている姿が目に見えてきます。

ふじおさん「ひとり旅」(P.60)。へ人は誰でも／生でいちばん初めに聴いて、うたった音楽が／わらべ歌……そのとおりですね。さっそく、なつかしいわらべ歌がまとまった本を探しに、本屋さんへ向かいました。おすすめは、与田準一編『日本童謡集』(若波文庫 1957年初刷 2009年第65刷発行)です。

浅尾長房さん「浅尾長房／ワルサーP.38」(P.63)。私の祖母は80歳を過ぎて更に10年の／パスポートを更新しようとしてました……すてきなおばあさまですね。

ここで打ち明けた話をひとつ……一度だけですが、編集部にかかってきた電話で、このおばあさまとお話したことがあります。編集部が都内にあった20世紀の終わり頃でした。(ワルサーP.38さんが海外駐在で代理なのですとおっしゃって、都内にお住まいだったおばあさまから、本誌に関するちょっとしたお問合せをいただいたのです。

わたしも、マイ詩集に書くようになってから40年あまりが過ぎていますが、去ってからの時間の長さに関係なく、本誌でのおつきあいを続けて下さっているみなさまには、いつもいつも心からの感謝です……。どうもありがとうございます。

それでは、次号のみなさまの作品も、楽しみにお待ちしております。

名言

小田ともひさ

空を見上げたら

今にも鳴きだしそうな重い雲

借家住まいだった昔を思い出した

雨が降り続いた年だった

隣のおばさん雨ざら見上げ

「あの雲の上は、いつも晴れているんだけどねー」

あれから何年もたったけど

あのおばさんびっしょりしているだろう

優しい笑顔 目に浮かぶ

セキユリテイー

滝田一三六

毎日お見かけしますが

身分証明書を見せてください
規則ですから

存じ上げておりますが

本人確認ができません
通すわけにはいきません私は私である事の証明が出来ない
皺だらけの顔 消えかかった指紋
コレステロールに満ちた血身分証明書って何なんだ
誰が私を私であると証明したのだ
顔パスは何時から無くなったのだまるで人間のよつこ
冷酷 無慈悲 心無い
まるで人間のよつこ……身分証明書があなたです
それが無いとは怪しいですね
警備員を呼びますよ

Thirty-one syllables

短歌・俳句 作品募集

- 短歌の改行の有無や位置は自由です。
- 連作は、短歌 2-10首前後、俳句は 4-20句前後まで。
- 用紙 A4判400字詰原稿用紙使用。ワープロ印字用紙も可。
用紙右上の余白にマイ詩集の同人番号を明記して下さい。
- 受付期間 5月25日 - 6月25日 (掲載：7月下旬 - 8月上旬発行の8月号)
- 送り先 〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集8月号 短歌／俳句係
メー ル 登録アカウント@my-shishu.com
メールの題名：8月号短歌／俳句係
- 課題テーマ作品についてはP21を参照して下さい。

闇
耀映

春の夢 たとえるのなら桜色

むせかえるような桜吹雪

春嵐 甘い夢など吹き飛ばす

思い出さえも吹き飛ばす強さ

夢の中では言えたはず なのは何故

出逢いと別れを繰り返す春

まどろみのなかでみる夢 春の夢

フワフワ ウトウト 現実をおぼえず

春を待つ すべてのものが見る夢は

あふれる笑顔 平和な世界

この夢が 叶わなくてもかまわない

春の思い出 大切な記憶

うららかに琴の音響く春の宵散るも見事な桜の花びら

この香り花の名前を当ててみて瞳閉じれば花束のキス

深呼吸緑の風に包まれて手足を伸ばし健やかに春

ニット帽編むのも終えて次の作残らず売れたチューリップハット

町外れ散歩道行く足元は踏まないように可愛い草花

幼くて人を知らぬか子雀は花と遊ぶよ私のそばで

大好きな年上のひと春生まれ優しい気持ちでお祝いします



咲く花の いのちかぞえて 桜咲く

想い出を 重ねて咲きし 八重桜

凜と咲く 思い出桜 花散らん

都坂 望む山々 桜咲く

恋心 春爛漫の 夢の花

テーマ作品特集 Stay with me

君と…

珠夢湖

君への想いを 伝えたい
歌でこの気持ち 届くかな
季節は流れて もう5年

ケンカもしたけど 最後には
分かり合えてるね お互いに

Stay… stay with me 明るい笑顔で
Stay… stay with me 乗り越えられそう

言葉の世界に 溺れそう
メロディは浮かんで 来てるけど
合わせる表現 難しい

君の気遣いと 優しさが
僕の迷いさえ かき消した

Stay… stay with me 明日を夢見る
Stay… stay with me 君に…ありがとう

Stay… stay with me 一緒に暮らそう



そばにいて

聖川 泉

あなたの声が 聴きたくて
瞳 閉じてみるの
優しい笑顔を 思い出せば
涙があふれて 止まらない

こんなにも こんなにも 好きなんて
あなたは 知らないのでしょう

震える心が そっとつぶやく
Stay with me I need you

そばにいてほしい
あなたがない 淋しさが
いつも私を 泣かせるの

あなたの胸の めくもりを
今も 感じてるの
静かにそっと 見つめ合えば
想いがあふれて 止まらない

あの頃に あの頃に 戻りたい
あなたは 忘れてしまったの

求める気持ちが そっとささやく
Stay with me I want you

ここにいてほしい
あなたがない 淋しさに
いつも心が 泣いてるの



今ひとつきだけでも

四谷 文

あなたがドアから出たときに
湯気を立ててたコーヒーカップ
僕のレシピは変わらないけど
今のあなたに違う味かも？
外で揃えたドレスの裾の
ほつれに気づかぬ僕じゃないんだ

男が待つのは女々しいかい？
あなたが帰れる場所を作るよ
Stay with me
今ひとつきだけでも

他の男の話には
のろけ
惚気た仕草つけてるあなた
恋する女の打ち明け話
僕の他にはできないんじゃない？
相手に変えるルージュの色の
違いに気づかぬ僕じゃないんだ

男が待つのは女々しいかい？
あなたが帰れる場所を作るよ
Stay with me
今ひとつきだけでも

告白

— 桜色染まる頃 —

月鏡レイ

あなたを思い出す
桜の花 咲くたびに
愛の告白 秘めたまま
淡く儂く 散った季節

花びら香る 春霞
あなたにもう一度 会えるでしょうか

Stay with me 行かないで
Hold on me 離さないで
声にもならなかった あの言葉
今ならちゃんと 言える気がするの

あの日の思い出が
桜色に 染まる頃
愛の告白 届けよう
甘く切ない ウタに込めて

花びら滲む 春霞
あなたの輪郭が ぼやけて見える

Stay with me 行かないで
Hold on me 離さないで
声にもならなかった あの言葉
今ならちゃんと 言える気がするの

Stay forever with me
I'm in love with you……



夢がかなうなら…

ふじお

いつもいつでも 夢見てるよ
君との出会いが
僕の生活観を 変えたんだ

何をするにも 力が入らない
ただ ただ
何となく 生きているって 感じだった

だけど あれ以来 僕は生き返った
本当の自分を 取り戻したんだ
そう そんな思いで 夢見てるよ

ありがとう ああ 愛しいよ
また 君に会いたい
だから そばにいて欲しい
Stay anytime with me…

君のひとこと 美しい瞳
優しい笑顔で
僕は勇気百倍 君は希望の星

君とのひととき とっても大切
いつだって
僕のこの 心の中で 輝いている

わずか 一瞬でも 僕にとっては
一年ほどに 感じてしまうよ
そう そんな思いで 夢見てるよ

ありがとう ああ 愛しいよ
また 君に会いたい
だから そばにいて欲しい
Stay anytime with me…

夢が かなうなら
そう 夢が かなうなら…

Stay forever with me

小田ともひさ

Stay forever with me
でもいいの 貴方は 自由な人
いつまでも 同じところに とどまれない人
一緒に 住み始めてから わかっていたわ
いつかは 今日の日が くることを

私のことなら だいじょうぶ
私は一人で 生きていく
貴方と暮らした 思い出を 胸に秘めて

Stay forever with me
でもいいの 貴方は たくさんのこと
私に 残してくれた 教えてくれた
たくさんの 愛と喜び 残してくれた
しあわせだったのよ 短い日々でも

心配しないで だいじょうぶ
私は一人で 生きられる
貴方こそ 無茶しないで 体を 大事にして

Stay forever with me
でもいいの 貴方の 命だもの
その夢を 大切にして 生きていってね
貴方は男 私のことなど 忘れていいわ
私が 寝てるうちに 出ていってね

私のことなら だいじょうぶ
私は一人で 生きていく
貴方と暮らした 思い出を 胸に秘めて



あなたにだけララバイ

坂井まゆ子

Stay with me, for me

Sho-T

初めてふれた あなたの髪
冷たい夜の においがしてた

あなたの愛する この街は
夜中になっても 眠らない
いつかはなりたい ビッグアップル
きょうも誰かが つぶやいている

歌ってあげる あなたにだけ
ハスキーボイスで ララバイ
Stay with me, I'll stay with you
ふたりのための ララバイ

今夜のあなた 眉間にシワ
のがした獲物 大物らしい

あなたの生きてる この街は
コンクリートの ラビリンス
いつかは掴める ビッグアップル
きょうも誰かが 手を伸ばしてる

歌ってあげる あなたにだけ
ハスキーボイスで ララバイ

Stay with me, I'll stay with you
ふたりのための ララバイ

時が 流れすぎた
君の あのぬくもり
春の 夢のように
今は 消えかけてる
Stay with me
Stay with me,
Stay with me, for me...

あれは 最後の夜
僕は 残してきた
君の 白い肌に
紅い 薔薇のマーク
Oh, Stay with me
Stay with me,
Stay with me, for me...

いつか 君は還る
僕は 信じている
春の 夢のように
君が まぼろしでも
Stay with me,
Stay with me,
Stay with me, for me...

街は 花の季節
僕は 今も真冬
君の 熱い吐息
欲しい 振り向いてよ
Ah Stay with me,
Stay with me,
Stay with me, for me...



Wind to slash

泉川正樹

切りつける風 血の気を増して
刃物と化す
夢の花 毒で出来てる
心を 蝕む

口移して注ぐ 毒に喜ぶ
君は 殺したくなるほど 可愛い

殺しの季節が 咲き乱れる

青ざめた月 殺気をおおひ
泣いてるよう
冷血と 無慈悲を並べ
後悔 繰り返す

悪い夢に深く 侵されてゆく
僕は 正気をくして 依存する

殺しの涙が 咲き零れる

天高く 空は 僕らを笑う
狂ったままの未来 見つめ直すのさ
今までの 記憶 潰してしまえ
そうして新たな脳に 味をつけるのさ

殺しの美声が 響き渡る

僕の目に 君の姿 焼き映される
死んでいるのかさえも わからない

殺しの季節が 咲き乱れる

殺しの涙が 咲き零れる

殺しの美声が 響き渡る

5人の妖精

涼木由真

なくしてしまった ピアス
どこかへ行って しまった
むかしの彼氏に もらった
きれいな恋の 思い出
そんなときには おまじない
小さな声で どうぞ

ロケス ピラトス
ソトアス トリタス
クリサタニトス
5人の妖精の 名前を呼んで

ロケス ピラトス
ソトアス トリタス
クリサタニトス
5人の妖精が 見つけてくれる

なくしてしまった 手帳
机の奥から 消えてた
打算のなかった 友情
学生時代の 思い出
そんなときには おまじない
小さな声で どうぞ

ロケス ピラトス
ソトアス トリタス
クリサタニトス
5人の妖精の 名前を呼んで

ロケス ピラトス
ソトアス トリタス
クリサタニトス
5人の妖精が 見つけてくれる

見つかったなら すぐに
お礼の言葉を 言おうね
サンキュー ありがとう



作詞(歌の歌詞)作品募集

将来性の高い作品にはこのコーナーで講評^{コメント}します。とりわけ優秀な作品に対しては、プロのミュージシャン・シンガーソングライターなどによる作曲と編曲でボーカル入りのデモCDを制作することがあります(必要に応じて補作詞が入ります)。

デモCDは基本的に音楽出版社・レコード会社等への売り込みに使用し、作詞者にも同じCDを3枚お送りします。

- 内容……作曲されて歌われることを前提とした歌詞
- 作品規定……A4判400字詰原稿用紙に横書き(ワープロ印字用紙も可)
題名・作者名・サビ・空行を含めて、20字×30行以内
第1行に題名、第2行下方に作者名、本文は第3行から書き始めること
- ・用紙の右上余白にマイ詩集の同人番号を明記して下さい。
- ・課題テーマ作品についてはP21を参照して下さい。
- 受付期間……5月25日 - 6月25日 (掲載:7月下旬 - 8月上旬発行の8月号)
- 送り先……〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集8月号作詞ワークショップ係
メール 登録アカウント@my-shishu.com
題名:8月号作詞ワークショップ係

このコーナーの作品と講評は、本誌同人専用スペース「作詞発表係」および「テーマ作品発表係(作詞部門)」を中心にしています。

現世乱歩

川の 流れに 身をまかせ
柳に 風と 受け流し
残る思いは 言葉のつぶて
ドドンと 花火を 打ち上げよう
歌の 花火を 打ち上げよう
庶民の 味方 川柳だよ

コンビニの 弁当が咲く 運動会
マーケット カゴへ生ウニ 妻 怒鳴る
大根や 凍る寒さが 甘味増す

川は 流れて 魚 住み
柳は 緑 なびかせて
どっこい 生きてる 笑っているぜ
も一度 花火を 打ち上げよう
歌の 花火を 打ち上げよう
庶民の 味方 川柳だよ

「若いわね」 昔 お世辞で 今 皮肉
定年後 ウルトラマンの 星さがす
ビル改装 ディスコが今は 老人ホーム

川は 流れて 水は澄む
柳に どじょう いるのかい
同情 いらぬと 笑顔を見せる
消えたら も一度 打ち上げよう
歌の 花火を 打ち上げよう
庶民の 心 しぶといもんだ

ふじお

春がやってきたよ
ポカポカ陽気で
背伸びしたいな
緑川の河川敷
色鮮やかに
菜の花が 咲き乱れ
イエローワールド

春がやってきたよ
らんらん心はずむ
解放感いっぱい
いつもの散歩コース
緑が丘公園は
お待ちかね サクラ満開
ピンクワールド

春がやってきたよ
そよ吹く風 気持ちいい
まるで夢ごごち
あたり一面 埋め尽くす
見渡すかぎり
可愛く変身 れんげそう
パープルワールド
ねえ春風さん お願い
今年も幸せを
たくさん運んでおくれ

今回も楽しい作品がいっぱい!!
それぞれの作品を音楽に乗せることを考えると様々なジャンルになり、
賞の選考には毎回苦勞をしております。
私の脳みそのCPUが足りません(^_^;)

私の中では、全作品に何がしかの賞がついております。
そんな中から今回もさらに選考させていただきました。

●「5人の妖精」 涼木由真 さん
とても面白いコンセプトで、おまじないの部分。
ライブで演奏して客席と一緒に

「ロケス! ピラトス! ゾトアス! トリタス! クリサタニトス!」
などとやっているシーンが浮かびました。

●「Wind to slash」 泉川正樹さん
正直なところ、何を言っているのか難解な部分も多々ありますが、
マシンガンのように出てくる言葉の響きが面白いと思いました。

毎回立場上、偉そうにコメントをしておりますが、
皆さんからたくさん刺激を頂いて私自身がとても勉強になります。
あらためて感謝いたします。次回も皆さんの力作をお待ちしております。

最優秀作品賞	「5人の妖精」	涼木由真 さん	(P41)
最優秀作品賞	「Wind to slash」	泉川正樹 さん	(P41)
テーマ部門賞	〈Stay with me〉 「君と…」	珠夢湖 さん	(P31)
テーマ部門賞	〈春の夢〉 「春がやってきたよ」	ふじお さん	(P43)
ユニーク賞	「川柳だよ」	現世乱歩 さん	(P43)
努力賞	「春の風」 「私が死んだら」 「桜舞うころ」	小田ともひさ さん 片野ちえみさん 北野麟朋 さん	(P45) (P45) (P47)

私が死んだら

片野ちえみ

私が 死んだら
私の 想い
どこか どこかへ
行けるのかしら

私の 体を
はなれた 想い
だれか だれかに
見えるのかしら

パパもママも 笑っていて
飛行機の 飛ばない空
平和を願った みんなで
みんなは 大人に なれたのかしら

もういちど どこかで 会えますか

私が 死んだら
私の 願い
どこか どこかで
かなうのかしら

私の 命を
燃やした 願い
だれか だれかが
受け継ぐかしら

教室には 屋根があって
あたたかい ミルクとパン
平和を願った みんなで
みんなは 大人に なれたのかしら

もういちど どこかで 会えますか

春の風

小田ともひさ

春の野山に 光る風
子ども心が わいてきて
君を降り切り 走りだす
君も笑いながら 追ってくる

長い黒髪 なびかせて
春うららかな 散歩道

春の水面に 光る風
なんだか嬉しく なってきて
石ころ拾って 投げてみた
君も真似して 投げてみた
黒い瞳を 輝かせ
春うららかな 散歩道

春のうららに 光る風
うきうき胸を はずませて
無邪気に手と手 とりあって
ランラ ララララ 踊りだした
瀬音にのって いつまでも
春うららかな 散歩道

■ 5人の妖精 涼木由真 さん (P 41)
とても面白い作品ですね!!
ヨーロッパ諸国に伝わるおまじないだそうですね。ググりました(^_^;) 楽しい作品です。

■ Wind to slash 泉川正樹 さん (P 41)
いろいろな映像のイメージが湧いてくる作品ですね。
詳しくなくて申し訳ないのですが、
バトル系のアニメやゲームのテーマになりそうな色がありますね。

■ 君と… (テーマ Stay with me) 珠夢湖 さん (P 31)
シンプルかつストレートで良い感じですね。
作詞作曲をしているという歌。面白いコンセプトですね。

■ 春がやってきたよ (テーマ 春の夢) ふじお さん (P 43)
タイトルからして、ウキウキさせてくれる楽しい作品ですね。

■ 川柳だよ 現世乱歩 さん (P 43)
面白いです。楽しいです。
歌詞の中に川柳を持ち込む試みは面白いですね!!

■ 春の風 小田ともひさ さん (P 45)
リズムカルな流れで、
キラキラと光る新緑が見えてくような作品ですね!!

■ 私が死んだら 片野ちえみ さん (P 45)
「どこか どこかへ」などの、
たたみかけるリズム感が、引き込む力を生んでいますね。
自由詩としても、じっくり味わいたい作品だと思います。

■ 桜舞うころ 北野麟朋 さん (P 47)
とてもストレートに心がほんのりしてくる作品ですね。
満開の桜が広がりました。
あと少し1番と2番の歌詞のリズムを整えた方が良かったかなと思いました。

春うらら

小田ともひさ

春のうららに さそわれて
花の下臥せ 決め込んだ
霞みの空から 漏れくる光
時おり吹きくる さやかな風
すぐにさそわれ 別世界

終わったばかりの 冬五輪
世界中の アスリート
熱い思いを 胸に秘め
力を出しきり 笑顔と涙
最後に手を取り 抱き合った

祭典は終わり 閉会式
国 人種の 差別なく
歌に踊りに 笑顔に歓喜
平和の渦は 世界をおおった
新たな時代が 始まった

春のうららに さそわれて
満開の下で 見た夢は
この前終わった 冬五輪
アスリートたちの 熱い思い
必ず来るだろう 平和な世界

桜舞うころ

北野麟朋

桜舞うころ
ひらひら落ちてゆく
風においを覚え
豊かな心

僕は歩いてゆこう
まっすぐに

幸せにほほえんで
風に笑ってあいさつをして
花のおいを
こころにかぎつけ
愛されていると
花は咲く

僕は笑顔で
心に花束を
愛の言葉にイエス
静かな時を

僕は走ってゆこう
嬉しくて

心に咲き乱れ
風に涙を浮かべてさわぎ
愛の言葉に
こころはドレミファ
愛されてると
花は咲く

■ そばにいて (テーマ Stay with me) 聖川 泉 さん (P 33)
シンプルかつストレートで素直に入ってくる作品で、好感が持てますね。

■ 今ひとつきだけでも (テーマ Stay with me) 四谷 文 さん (P 35)
ちょっと面白いアプローチですね。
「・・・ドレスの裾の・・・」などの細かいディテールが
ドラマチックなストーリーの色どりを深めていますね。

■ 告白—桜色染まる頃— (テーマ Stay with me) 月鏡レイさん (P 35)
最初に大雑把に読んで、これがサビだなどとすぐに解る、
メリハリがとても良いですね。

■ Stay forever with me (テーマ Stay with me) 小田ともひさ さん (P 37)
ストレートなゆえに、切ない思いが伝わってくる作品ですね。

■ 夢がかなうなら…… (テーマ Stay with me) ふじお さん (P 37)
少し言葉の整理が必要かもしれませんが、
ストレートな思いが伝わる作品で好感が持てますね。

■ あなたにだけララバイ (テーマ Stay with me) 坂井まゆ子さん (P 39)
殺伐とした夜の都会と妖艶なテイストのコントラストが素敵ですね。
・・・私も、このララバイを聴いてみたいです(^_^)

■ Stay with me, for me (テーマ Stay with me) (テーマ 春の夢) Sho-T さん (P 39)
シンプルかつストレートゆえにスピード感があり、
情熱を感じさせてくれる作品ですね。

■ 春うらら (テーマ 春の夢) 小田ともひさ さん (P 47)
ところどころ言葉のリズム的に難しい部分がありますが、
コンセプトはとても素敵な作品ですね。

■ 春の夢でも (テーマ 春の夢) 涼木由真 さん (P 49)
四谷 文 さん「雪の下のパンジー」(2月号P31)への返歌。

春の日のティールーム

坂井まゆ子

二月の半ばの お客様
熱いココアに マシュマロを
溶かして飲んでる 女の子
ひとりでため息 ティールーム
渡しそびれた チョコレート
かばんの中で 眠ってる

二月の雪は ぼたん雪
はかなく溶ける 春の夢

三月はじめの お客様
お砂糖入れずに カフェオレを
だまって飲んでる 男の子
ひとりで思案の ティールーム
渡しそびれた 第二ボタン
卒業式の 帰り道

三月の風 南風
切なく香る 春の夢

四月の雨の日 お客様
ふたつの注文 ワインゼリー
あの女の子と 男の子
ふたりが向き合う ティールーム
偶然出会って 雨宿り
駅前のお店で ティーターム

四月の雨が 降り注ぐ
いま花ひらく 春の夢

春の夢でも

涼木由真

恨まないで 私のこと
ひと目惚れ 本気なのよ
ごめんなさいね 貴女から
奪うつもりじゃ なかったの

雪の夜の 田舎の駅
最終電車 待っていたの
ふたりしか いなかった
それだけで それだけで……

つかのまの 春の夢でも
かまわない
ああ 春の夢でも

見つめた時間の
長さじゃないのよ
それが 恋

恨まないで 私のこと
あいつはね 甲斐性なし
もったいないわ 貴女には
もっといい人 現われる

野原にしか 咲けない花
踏まれてきた ただの雑草
ふたりとも 貧乏なの
それでもね それでもね……

つかのまの 春の夢でも
かまわない
ああ 春の夢でも

尽くした時間の
長さじゃないのよ
それが 恋

添付メッセージをそのまま転載させていただきます。

『四谷文さんの「雪の下のパンジー」(2月号P31)を読んで、
直感的に書いてしまった三角関係のラブソングです。

甲斐性なしの"あいつ"が、四谷さんの詞の"罪作りの貴方"に相当するのですが、
四谷さんの描いている三角関係とはちがう略奪愛になってしまって
申し訳ないです……。』

こういった描き方も、とても楽しいアプローチだと思います。

■ 春の日のティールーム (テーマ 春の夢) 坂井まゆ子 さん (P 49)

川島理生子さん「ふしぎなカフェ」(2月号P10)への返歌。
これもお仲間の作品からインスパイアを受けてのアプローチ。
楽しいアプローチですね。

冬から春に。

夏、秋も出てくると、このカフェの四季ができますね(*^_^*)

■ Error 泉川正樹 さん (P 50)

ふだんPCやスマホに頼る生活をしているだけに、
このタイトルはドキッとしてインパクトがありますね!! (笑)
後半のサビの繰り返しに勢いを感じます。

■ 虹色のパスポート 吉沢弘子 さん (P 50)

ほんのり淡く、切ない初恋だけど

「虹色のパスポート」が希望の力を貸してくれますね。

それでは、次回も皆さんの力作を楽しみにお待ちしております!!

SONGWRITING BASIC 1



FOR BEGINNERS

はじめて作詞をする？

右下のフレーズと比べてみてくれ

A (アイ)の言葉は 言いたいとき

A (キミ)は近視で 読み取ることは

これくさいから 言えない

僕のままに

7字(3)字+4字(4) 4字 4字

有海さんの作詞ワークショップも しっかり読めよ！

はこ...

●作詞には、三つのお約束がある。メロディーやリズムに乗りやすいように、ね。

一、**字脚をそろえる**。二、**1番2番のフォームを整える**。三、**サビでリフレインする**。

●作詞って、一種の定型詩なんだよね。童謡や演歌はたいてい七五調だから、わかりやすいと思う。ポップスやロック系の歌詞は、ちょっと見、自由詩に近いけど、A×O・B×O・C×Oとかの、幾つかのブロックから成り立ってる。どのブロックも、単語の字数の組み合わせが揃ってるんだ。

1番のA×Oも、1行目3字3字4字3字、2行目4字4字3字なり2番のA×Oも、1行目3字3字4字3字、2行目4字4字3字なり。これが、**字脚(字足)をそろえる**っていうこと。

●歌ってというのは、基本的に1番と2番がある(3番以降もよくある)。歌いやすく覚えやすいように、1番と2番は、同じメロディーで歌う。1番と2番は、音符の数も小節の数も同じ。だから、1番のA×O×O×O...と、2番のA×O×O×O...は、字数も行数も同じ組み合わせにする。これが、**フォームを整える**っていうこと。1番と2番で同じフォームを使うんだ。

【A・B×C】【A・B・C×C】【C×C×A・B・C×C】とかの色んなフォームがあるよ。

●いちばん訴えたいことは、繰り返してアピールするのが、歌の歌詞なんだ。だから、**サビは必須事項**。1番と2番で共通のフレーズを使うようにしようね。

曲に乗れるなら ちよつとくらいのこと 字余りは許される...けど 基本を覚えてからにしてくれよ...

私 初心者なんです すみませんっつ

自由詩と、どこが ちがうんですか？

アイシテルなんて てれくさいから なかなか言えないんだけど キミは近視だから 僕のままざしを 読めないんだよね

虹色のパスポート

吉沢弘子

いつか あなたと
行くはずだった イタリア
ローマ ベネチア
あこがれていた 美しい町

心の中には 今もある
虹色の パスポート

あの街 この街
あなたとふたりで
手をつないでる
夢を見ていた
あの頃……
初恋……

いつか あなたと
旅立ちたかった イタリア
ミラノ ポンペイ
写真の中の あこがれの町

心の中には 今もある
虹色の パスポート

大人に なっても
あなたとふたりで
寄り添っている
夢を見ていた
あの頃……
初恋……

Error

泉川正樹

気まぐれな朝に 起こされた
夜中の 悪い夢で
今も 気分は 悪いまま

まぶしく広がる 太陽の
光で 溶かされたら
僕は 生まれ変わるかな

生き場をやり場を 失った
想いが 荒れ果てた
心を 優しく 包み込んだ

どれだけ傷ついても
僕たちは 2人で 1つだから
見えない光を 探して歩こう

君はこの部屋 立ち去った
本当に 情けないよ
僕には 引き止められなくて

たった一度の 過ちで
これほど 苦しいとは
あの頃の ときめき 取り戻したい

僕は今 耳を 澄ましてる
この声 聞こえているなら
君も 返事をしてほしい

どんなに離れても
僕たちの 心は いっしょだから
確かな想いを 抱いて進もう

どれだけ傷ついても
僕たちは 2人で 1つだから
見えない光を 探して歩こう

どんなに離れても
僕たちの 心は いっしょだから
確かな想いを 抱いて進もう

自由詩を書ける人なら
それを活かすコツがある！



まず短めの自由詩(8行〜10行)を書こう。
これを歌詞の1番とする。フォーム
A×O、B×O…の構造を意識して
A B C…の各ブロックは、
1行か2行(多ブロック同し行数)で
内容が完結するようにつまどめていよう。
A B C…のメロディは、長くても短くても
基本的に8小節単位で構成されている。
1行の長さ(差)がありすぎると、字余りや
字足らずで歌いにくくなるから注意して。

次に、1番の言葉と字数がぴったり
合う言葉をつなげて、2番を作る。
例えば、1番の出だしが
真夜中の 高速
フルスピードで 駆け抜けてく
なら、2番の出だしは
明け方の 海岸
ヒヨドリ達が 北に向かう

平仮名で数えるときぴったり合うよね。
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

同じ字数で区切り目が来るように。
1番2番は最後まで字数を合わせる。
これが「字脚をそろえる」ってこと。
場合によっては、1番の歌詞を修正。
サビのフレーズなど、ポイントになる所は
1番で形容詞+名詞なり
2番も形容詞+名詞で、品詞も合わせてみる。
ノリがいい歌じゃすい詞になるよ。

SONGWRITING BASIC 2



歌詞の場合もね、美味しいところは出し惜しみしちゃダメなんだ。
この歌いぞって聞き手のハートをキャッチするのは、時間的に早いモン勝ち。
伝えたいメッセージやストーリーは、歌詞の1番だけで一応完結させておこう。
TVの歌番組でも、時間の都合で1番しか歌わなかったりすることが多い。
ラジオのDJだって、曲の1番を聞かせた後、それ以降はBGMにしてトーク。
3番でまた曲だけ流す…ってパターンが多いからね。
歌詞は、1番より2番のほうが美味しいみたいなのが作り方はしないのさ。
1番2番…と進みながらストーリーが変化する歌詞もありだけど、
詞にも曲にも高度なテクニクが必要なんだ。
ふつう、1番2番…は同じメロディを繰り返す。
明るく楽しいメロディには楽しいような詞が合うわけで、
哀しい感じの詞では合わない。
1番で出会いのうれしさ2番で別れの哀しさ、なんて詞では、困っちゃうよね。
基本は、歌詞の1番だけでストーリー完結。
2番3番は、1番の別バージョンのつもりで作ってみよう。
わかりやすいのは、1番に出てくる情景や小道具を多少入れ換えて
1番と同じメッセージを(サビで)繰り返す、っていう構成だな。
ex. ♪1 授業中の教室 教科書している
♪2 昼休みの校庭 お弁当食べてる
同じ情景や小道具や人物でも、角度を変えて描写するとか…
ex. ♪1 君のてのひらの温もり
♪2 君のハちつけの優しさ
同じ状況で時間をちよっとだけ
進めて、なんてもアリかな。
ex. ♪1 公園で待ち合せて出会う
♪2 公園を手をつないで歩く
プロの人の歌詞や、
作詞ワークショップに載ってる
優秀作品も研究してみようね。



『作詞ワークショップ実践編』として
マイ詩集の同人のみなさんの
発表作品の中から選ばれた作詞は、
プロのミュージシャンによる
補作詞・作曲・編曲・レコーディングを経て
デモCDになっています。
優秀作品のCDは定期的に制作しています。
オリジナルの作詞が歌に仕上がっていく過程や
作詞のポイントなども、
曲の担当者、詞の担当者が
誌上で紹介していきます。

MY詩集作詞ワークショップCD vol.4
【BOY～欲張りに夢を抱えて走る君の歌】 【生きてる証】

作詞: 北森耕太郎 / 松下あけみ
作曲/編曲: 有海治雄 歌: 有海治雄

通信販売のお申し込み

頒価: 送料共 1000円 (2曲入り)
現金書留・切手代用(100円切手X10)・銀行振込(三井住友銀行高円寺支店 普通1279529)
〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集 作詞ワークショップCD通販係
editorsroom5@my-shishu.com メール題名…作詞ワークショップCD通販係

ホークアイ

ワルサーP 38

I
イーサは走っていた
それが毎日の仕事だった
本当はもっと早く走れるけれど
これ以上早く走ったら水がこぼれてしまう
ケガをした姉のマリエムの為に
イーサは遠くの井戸に毎日水を汲みに行く
イーサはマリエムが大好きだった
早くきれいな水を飲ませてあげたかった
弟のロネンは崩れた家の下で死んでしまった
大人達はロネンに会わせてくれなかったけど
イーサが汲んできてくれた水で
ロネンをきれいに洗ってあげられたと言った
それ以来イーサは毎日水を汲みにいった
イーサの靴はとつくに敗れてしまったが
それをみた外国人が水色の帽子をくれた
でもイーサにとって一番大事なことは
マリエムが生きていてくれることだった
それが学校よりも礼拝よりも大事だった
大地にまた爆撃音が響いた

II
赤茶けた乾いた大地で俺は井戸を掘っていた
危険はないことになっているのだが
時折聞こえる地鳴りのような爆発音が
近くの市街にまた砲弾が着弾したことを
知らせていた そこにはまだ住人がいる
毎日大きな布のバケツを持って
水を汲みに行く少年の英語は片言だったが
学校よりも水を汲むほうが重要なのだろう
大人達に混じって
いつも静かに順番を待っているが
運べる水の量が少ないので
日に何回も来なくてはならないようだった
そのうちに少年の靴はボロボロになり
そして素足になり血がにじんでいた
俺はその夜の定期報告で子供の靴を
送るよう依頼したが
任務上の必要性は認められないと却下された
俺は申し訳ない気持ちでいっぱい
せめて と帽子をあげたら 少年は微笑んだ

III
抜けるような青空と乾いた空気は同じだが
そこは地球の反対側だった
コロラド州の広い空軍基地の敷地の中に
一連のトレーラーハウスが並んでいて
その中には最新のゲーム機器が収まっている
モニターを見つめジョイスティックを操る
もつすぐ勤務時間も終わる
その日は帰りにショッピングセンターに寄り
ラム肉と息子の運動靴を買ってくるようにと
妻に言われていた
地球の裏側の敵地上空7千Mから
鷹の目を持った無人機がテロリストを追いかけていた
小規模な部隊が井戸を掘っていて
そこに向かって走っている不審者を発見した
多少の疑念はあっても不審者は即座に
ミサイル攻撃するよう命令されていたが
よく見ると同盟国の帽子を被った少年だった
兵士はホッとして帰宅準備を始めた

春だよ

寒い日が続いたけど

ようやく暖かくなってきた

桃の花は まだ蕾

早く咲かないかな

つくしはどつたらろう

地面をよーく見ると

いました

ちいさな顔を出して

私に言ってます

「春だよ」って

...

ブルバール

ジェット気流に乗って

スイングしながら

小鳥たちが飛んで来た

春の気配を感じた森が発芽の音をたて

大地が深い眠りから目を覚まし

太陽の光の魔力で花々が咲きはじめる

活気ある陽気が巡り

無邪気な子らの笑い声が大空に響く

そろそろおすまし桜が花開く

春風

雪した桜

岡田 尚

同級生の話

同級生は お姉さんと 二人姉弟で

同級生が 家の跡を 取ったんだけど

同級生の母は いつも 姉に

お金を あげたりしてた

同級生の父が 死に

同級生の母が

認知症に なった時

同級生が 姉さんに

「忙しいから」
と
ことわられたってさ
ちゃんちゃん

私のこころの銀の時計

吉沢弘子

さわやかな 風が吹いても

この身の 淋しさゆえに

こころは あまりにも せつない……

でも いつの日にか

出会えたこと

あのひとときが

いまも 私のこころのなかでは

銀の時計

あなたとどこかで

ふたたび出会える
夢 そして
未来への希望 たずさえて
歩いていきます……

恋歌

夏の雨

中窪利周

おおら利男

若い日

二人で過ごした

部屋を訪ねて

若い日の

二人に戻る

ハーバリウム

月鏡レイ

あなたのことを

仲倉詩織

出窓に飾った
薔薇は微笑む
ガラスボトルの底
小さな声を沈めて

あなたは
その指先を
触れることも出来ず
ただ
眺めているだけの愛

シリコンオイルに
保たれた未来
永久の唇は
色褪せることもなく

暗闇に咲いた
花びらが揺らめく
ガラスボトルの中
最後の呼吸を
閉じ込めたまま……

昔、夏の雨といったら
昼間晴れて 暑くなり
雲が どんどん大きくなって
カミナリが鳴って 夕立となった
雨が止んで 明るくなり
空には 大きな虹がかかっていた
そんな 絵になるような 雨降りだった
夜のカミナリは とても怖くて
カヤの中へ すぐに逃げ込んだ
カミナリがやむのを ただ じっと
息をひそめて 待っていた
だが 最近の雨降りは 少し違う
朝でも 昼でも
夕ぐれも 夜も 時をかまわず
どしゃ降りである
これでもか これでもかと
容赦なく 降りつつく

あなたが指環を買ってくれた。
正しくは、半額出してくれた。
デザインは、
あなたが選んでくれた物にした。
後日、私は、メールで、
「あなたのお嫁さんになりたい、けど、
それは許されないよね？」
私のイビキは許せないでしょ？」
無反応。
再度、
「変なこと言って、ごめんなさい。
本当に嬉しかったんだ。」
無反応。けれど、
デイケアで、私と少しずつ
共に過ごしてくれる時間が
増えてきた。
あなたが、増やしてくれた。
：それで充分だ。
それ以上望んだら、バチが当たる。
私の中のあなたへの想いが
幸せに変わった。
6年目になるけど、ウヨキヨクセツ
あったけど、
やっぱり、あなたを選んでよかった。
ホシてます。私。

ひとり旅

サラ寛美

いざ、高野山へ
朝7時、空港へ出発
順調に事は運ぶと思いきや、ちよつど
去年の台風で直行電車は不通であった
ガイドにはそんなこと書いていなかったよ
私が泊まる恵光院には夕方5時に到着
精進料理は優しい
白飯のおいしいことといったらなかつた
写経を途中まで書いたところで
奥の院へ ナイトツアーへ出発
2kmの夜の道を
千歳出身のお坊さんの
ガイドで歩いていへ

大木の杉からは
これでもかと パワーがあふれている
奥の院の空気は 透んできて
心なしか あたたかさを感じる
若いながらもお坊さんの般若心経を唱える声の響きが
今まで聞いたお経と違う 感動する
一気に疲れが吹き飛ぶ
早朝6時半からのお勤めと護摩
不謹慎ながらも 私はお経がやたら
カッコイイと思ってしまう
たった一拍二日の旅であっても
誰も 私の名まえや どんな仕事なのか
たずねてくる人はいない ほっとする
まわりは外国人ばかりで日本人はいない
知らない外国人に
英語で「COLOR」と言っただけなのに
つい親しみを持つ
心の ふる里を とつとつ見つけたよ

わらべ歌

ふじお

わらべ歌 好きですか
人は誰でも
人生でいちばん初めに聴いて うたった音楽が
わらべ歌
そう 子どもの頃 幼少の頃を
思い出しませんか
昔を振り返るとき いつもそばに
わらべ歌がいませんか
そしてつい □ずさむことってありませんか
春夏秋冬 季節感いっぱいなのわらべ歌
鳥や動物たちが主役のわらべ歌
ヒーローたちが活躍するわらべ歌
昔からずっと歌い継がれた 叙情歌の名曲たち

私たちの暮らしにも関わりが多い
わらべ歌たち
あなたは どんなわらべ歌が好きですか
近頃 色とりどりの音楽が
世の中にあふれています
わらべ歌が私たちの生活から
遠く離れてしまって
忘れられてしまったようです
それでは わらべ歌たちが可哀想
だから 今一度 みんなで
わらべ歌をつたってみましょう
子どもの頃を思い出しましょう
人の心を和ませ 優しく包んでくれる歌
人生に夢と希望を与えてくれる歌
それは やっぱりわらべ歌
日本人に生まれてよかったなと感じませんか
大切にしたいな わらべ歌

ワルサーP38 / 浅尾長房



浅尾長房 (II)



ワルサーP38



浅尾長房

ワルサーP38 (I)

気が付けばもう半世紀近くの付き合いである
もちろんそれはルパン三世からの拝借だった
試験前の一週間はクラブ活動が休止になる
だから勉強しなくてはいけないのだけど
でも自宅で一人になればギターを抱えて
詩作に没頭した T・Rexに憧れていたが
自分に音楽の才能がないのはすぐに分かった
父親はバンドマンだったのだが
でもMボランのガラス細工の様な詩の世界は
一瞬にして私を現実世界から隔離させた
それを試験勉強からの逃避とも言うのだが
思えばあの退避が後の私を形作った気もする
二十歳になったときに自費出版もした
バイト半年分の費用は痛かったが
若造が自分の軌跡を確認できたという意味で
よかったのではないかと思う
でも両親と弟には照れ臭くて見せられなくて
祖母にだけ見せた なぜだろう？

ワルサーP38 (III)



浅尾長房

奴は理系気取りで理屈っぽい
左脳の人間であるから右脳のセンスが
必要なんだとつそぶいている

ワルサーP38はそこから生まれた
幸運にも奴が生き残れた理由はそこにあつた
月に100時間を超える残業をしても
徹夜仕事の明方の小鳥の囀りに心洗われた
毎週のように日付変更線を跨いでいても
奴にとつて海外出張は心躍る冒険の旅だった
人生の岐路で迎える様々な誘惑に対しては
奴は敢えて無防備で飛び込んだが
外国の土産を喜ぶ息子達の笑顔が見たいから
出張先では何よりも土産選びを優先した
社会の事も会社の事も自分の事も
奴はその時にやりたい事をやっただけだった
息子達には何一つ遺すつもりはないと
公言しているが
奴にとつて最も大事な事は
息子達に自分を理解してもらう事だった

二十歳の若造が自分の軌跡だとか言つて
自費出版してから40年の歳月が過ぎました
月に一回の投稿を自分に課してきたから
その数は500作を優に超えます
でもまだまだ書きたい思いは溢れ出てきます
何が凄い事かと言つと私は還暦を迎えますが
ワルサーの感性は20歳のままだという事
これには自分でびっくりしています
同世代の多くは役職定年だ高血圧だ熟年離婚だと
忙しいですが でも私は言いたいのです
まだ寿命は延びるから後40年位は
生きなくてはならないのに
今から枯れてどうすんだあ
私の祖母は80歳を過ぎて更に10年の
パスポートを更新しようとしてました
そんな祖母だからあの時本を見せたのですね
40年も支えてくれたMYの方々に
感謝しかありませんよ

夢をつかさどる女神

冬木りた



それでも、夢がきっかけとなって、彼にまつわるいくつかの思い出がよみがえってきた。

原田央男（以後、文中敬称略）。

この名前を、「へはりだてるお」と正しく読めるひとは何人いるだろう。

彼は同じ高校の一年生にいたのだが、その名前を知ったのも、会って話をしたのも、わたしが高校を卒業して一年めか二年めのことだった。

高校では秋の体育祭に、一年から三年までの各学年の組を縦割りにしたグループ分けがおこなわれていた。個人や団体のさまざまな競技の成績が、所属するグループ別に加算されて総合順位が決まる、という方式である。優勝するとトロフィーのほか、グループの全員にノートなどの文房具が副賞として与えられるのだった。

わたしがいたのは二年九組で、事前の会合のときから三年九組や十組の先輩たちとは顔を合わせる機会があった。体育祭が終わってから、なんとなく親しくなっていた先輩の三人ぐらゐとは、放課後に校内のどこかで顔を合わせればおしゃべりをする間柄になっていた。彼らが卒業したあとも、しばらくのあいだ、高校の最寄り駅の沿線のどこかで偶然出会うと近くの喫茶店でいっしょにコーヒーを飲むといった程度のつきあいが続いた。

原田央男はそのなかには含まれていなかったが、高校では三年十組にいたようだ。そのころいちばん親しいコーヒー友達になっていた先輩とのあいだで、たまたま漫画の本の話題になったとき、先輩が同じクラスだった彼の名前を出した。「原田の家がこの近くのよ。あいつの部屋には漫画の本もたくさんあるし、どんな漫画にもくわしいんだ」と言われて、喫茶店を

夢のなかに、旧い知り合いが登場していた。場所は、四十年まえの大田区だか板橋区だかの産業連合会館で開かれていた、アマチュア作家の若者たちが集まる同人誌即売会の会場だった。

同人誌といっても文学のそれではなく、半分ぐらいは漫画の作品集、あとは当時ミニコミ誌と呼ばれたもので、仲間内で作る趣味の雑誌だ。

ミニコミというのは、マスコミと対比した命名で、その時代の造語である。文学の世界ではむかしから仲間内で作る作品集のことを同人雑誌というのだが、これは巡礼者の同行どうりょうじん二人からくるものである。しかし漫画の場合は一九七〇年代半ばのころから同人誌といわれていて、そのまま定着してしまったので、このあともその表記で統一させていたことにする。

夢に出てきた広い集会室のフロアでは、それぞれの同人誌のグループが三人掛けのテーブルと椅子のセットをひとつずつ使っていて、二十ぐらいの売り場ができていた。

彼は、その即売会を主催するグループのリーダーとして忙しそうに動き回っていて、いろいろなひとに声をかけたり、声をかけられたりしていた。

夢のなかで彼はどういうわけか十八歳の高校生になっていて、詰め襟の制服姿だった。

わたしがその即売会で出店参加者たちのテーブルを渡り歩いていくつも作品集を買っているところは、四十年まえの現実と同じ、という夢だった。

知り合いといっても四十年まえに会ったのは三回へびいで、その後はまったくつきあいがなくなっているのだから、彼は私のことを憶えていないだろう。わたしのほつも、ここ四十年のあいだに思い出すことはほとんどなかった。

出たあとのわたしはその先輩によって彼の住んでいるアパートに連れていかれた。

央男という名前の読みかたが「へるお」であることを教えてくれたのが本人だったか、同行していた先輩だったのかは憶えていないのだが、彼のフルネームを知ったのはその日のことだった。当時の彼は実家の近くにアパートを借りていて、毎日の食事は実家でとって大学に通うという生活だった。

黒縁の眼鏡をかけた、黒いシャツと黒いストラックスをまとった彼、原田央男の姿は、その当時にはまだなかった言い方だが、いま思えば、のちの時代にオタクと呼ばれる若い男たちの典型的なルックスだったと思う。

原田央男の自室には窓があったのだろうか……漫画の単行本を収めた本棚が並んでいて、それが壁のように思えたものだった。

そのときの彼の部屋では、三人で各自が最近読んだ漫画の話をした。具体的な内容についてはほとんど記憶にないが、わたしがNという少女漫画家のしばらくまえの作品についての感想を言ったあとで、その倍もの長い感想を原田央男から聞かせてもらったことを憶えている。

漫画の本や雑誌が低学年向けのものではしかなかった時代は終わっていて、少年週刊誌の読者の成長に合わせた、青年向けの漫画雑誌が発行されるようになったころだ。

だが、大学生の男の子たちが少女漫画ならでは文学的な味わいに惹かれたとかで関心を持つようになり、少女漫画を読む二十代三十代の男たちがふえていくのは、もう少しあとの時代になる。

それは、わたしが原田央男と偶然の再会をしたころだ。彼と最初に顔を合わせてから三年へらい後のことである。

都内の産業連合会館で開かれていた、アマチュアの若者たちによる漫画同人誌とミニコミ誌の即売会、コミックマーケットというイベントの会場だった。

そのころのわたしは文芸のサークルに参加していて、そこで親しくなった友人たちとミニコミ誌を創刊し、ほぼ月刊のペースで発行するようになっていた。

そのミニコミ誌には「裸心版」というタイトルがつけられていた。おもな内容は、アマチュアミュージシャン主催のコンサート情報やミニコミを含めた自費出版の作品集の紹介で、編集メンバーたちの趣味である洋楽や旅行などのエッセイも詰め込まれていた。

メンバーのひとり、同人誌やミニコミ誌の即売会が開かれるという情報をどこかで得て、出店参加を申し込んできたのだが、反対する者はひとりもいなかった。ミニコミ誌で読者を獲得する方法としては、メンバーがそれぞれの学校や勤め先で興味を持ってくれそうなひとに買ってもらうというのがせいぜいで、若者向けの雑誌の読者欄で宣伝することはできたが、一度掲載されると二度目はほとんどなかったのである。

わたしと原田央男との再会は、挨拶程度のあっさりしたもの終わった。だが、そのときの会場に来ていた、わたしを原田央男の家に連れていってくれた高校の先輩は、原田の姿をみつけたとたんに駆け寄っていき、同級生との再会のごよびを分かち合っていた。

即売会の閉会時刻になって、会場から引き上げるときに後片づけを手伝ってくれた先輩は「原田がリーダーなんだ……すごいな」などと、わたしに言ったものだ。

その先輩の言葉通り、原田央男は、漫画同人誌の世界の重鎮のひとりになっていたのである。

ときが二回目の開催だった。その当時は四ヶ月に一回のペースで開催されていたのだが、わたしと友人たちがかわった時期は一年べらり、三回目か四回目までだったと思う。

出店参加をしていないときでもミニコミ誌の宣伝を兼ねて、交流のある漫画サークルの新しい作品集を購入するために出かけていたのだが、その後のコミックマーケットと縁遠くなった理由は、ふたつある。

ひとつは、そこが漫画やアニメの愛好家専門の同人誌即売会になっていったことだ。わたしたちが作っていたミニコミ誌では、わずかな数だったがアマチュア作家の漫画作品集や、プロの漫画家のファンクラブ誌を紹介することもあったから、それで出店参加ができたのだろう。宣伝や販売の場所は、ミニコミ誌を置いてくれる書店や飲食店などが少しふえていたので、そちらが主流になっていた。

もうひとつの理由は、編集メンバーたちの個人的な多忙などで発行が滞るようになり、やがては休刊のお知らせを読者たちに配布することになったからである。休刊というのは事実上の廃刊なのだが、そういう呼び方でマスコミに做ってしまつていく、自分たちの雑誌に愛着と誇りを持っていたのだと思う。

だが、ミニコミ誌という当時の若者たちに支持されたカルチャーワールドも、ほどなくして消えていく運命にあった。ミニコミ誌というのはマスコミの雑誌やその記事に飽き足りない者たちが自分たちで文章を書き自分たちで編集したものを読んでもらうという、手作り感覚で生まれていくものだった。おそらく、手作りは時代遅れのものになっていったのだろう。ひと昔まえにはできなかった警沢が不可能ではなくなっている時代だった。自分で縫った洋服を着ていたひとたちが市販の服を買うことが多くなり、既成服にブランド品がふえて、ハンズには

当時のコミックマーケットの主権グループは、原田がホームグラウンドにしている漫画同人誌のサークル「迷宮」のメンバーだった。「迷宮」からも、数ヶ月おきに作品集が発行されていた。

その日の即売会の会場でも、「迷宮」の作品集が売られていた。かなりの厚さをもったその一冊には、そのころにカリスマ的な人気を得ていた少女漫画家、萩尾望都の作品にたいする評論のほか、代表作である『ポーの一族』のパロディ漫画、『ボルの一族』が掲載されていた。主な作画は原田央男である。萩尾望都はそのころ好きな漫画家のひとりだったこともあり、わたしも来場者の波がすこし引いたときを見計らって、彼らのサークルのテーブルに足を運んでそれを購入した。

相手が高校の後輩で初対面ではないことの気安さからだったのか、原田央男が、長年愛読してきた萩尾作品の素晴らしさを、熱っぽい言葉とクールな態度でわたしに語ってくれたことが思い出される。誰かが原田を呼びに来てその熱弁は中断されたが、そうでなければ時間の許す限り続いたことだろう。

いま思えば、そのときの彼の様相も、もう少しあの時代からオタクと呼ばれるひとたちの大きな特徴のひとつだった。

オタクというのは漫画やアニメのジャンルで博識なファンのことを意味しているのだが、博識というよりも果てしなくマニアックで、瑣末なことから含めて好きな作家や作品についての蘊蓄を、いつまでもどこまでも続けられる人種のことをいう。一般のひとが「きみはどう思う?」「あなたには感謝してるよ!」などと言う場合に、彼らは「オタクどう思う?」「とあったくあいに二人称として使うことが多いので、オタクと呼ばれるようになったという説が有力とされている。

原田央男のグループが主催するコミックマーケットは、その

出版業界でも特定の趣味を扱つような専門的な雑誌がふえていた。

原田央男とコミックマーケットで会ってから一年あまりが過ぎたころ、わたしはもとのホームグラウンドだった文芸のサークルで知り合ったひとから詩の同人雑誌に誘われ、そこが新しいホームグラウンドになっていた。

それから二、三年後に、ミニコミ誌を作っていたころの知り合いから、原田央男が彼のホームグラウンドの同人誌「迷宮」を離れたことを聞かされた。彼は、コミックマーケット主催グループのリーダーもやめていて、グループと袂を分かつ生き方を選んでいたのである。

知り合いが話してくれた理由は、アマチュア漫画家の交流と作品発表の場として提供した即売会が、創作漫画ではなく既存の作品のパロディ漫画で出店参加者や来場者がふえていく状況に違和感が大きくなった、というものだった。彼自身、同人誌では萩尾望都の作品のパロディをいくつも手がけていて、一般の漫画愛好家たちにパロディという楽しみ方のお手本を示したわけだが、自分たちが産み出したものの、あまりにも早急で関連な独り歩きについていけなくなったというところらしい。

そのコミックマーケットは、原田央男と同年代で彼とともに主催グループの一員だった青年、Yが新しいリーダーになってから、めざましい発展ふりをみせてゆく。

人気の高い連載漫画がごとくアニメ化され、それらのパロディ漫画を手がける同人誌作家たちが、参加サークルの数をさらにふやしていったのである。漫画やアニメにくわしい若者たちが、オタクと呼ばれるようになった時代だ。

コミックマーケットに出店参加する同人誌の数と来場者の人数は、回を重ねるごとに飛躍的に伸びていった。会館の集会所

や多目的ホールでは収容しきれないほどに膨れあがって、やがては晴海、有明、幕張にある国際見本市に使われるような広い展示会場でコミックマーケットが開かれるようになっていくのである。

特定の参加サークルのブースが会場のどこにあるかが分かるように、コミックマーケットの主催グループでは、毎回、カタログと呼ばれる冊子を販売してきた。

巻頭にあるのはコンサートホールの座席案内図と似たようなもので、いくつかのブロックにブースの番号が並んでいる一覧図、そのあとには一ページにつき三十くらいのサークルのブース番号と販売品などのイラストが詰め込まれているというものだ。そのカタログは、三十年まえには十ページが二十ページくらいだったのが、数年後には何百ページものポリウムになっていく。

三十年ほどまえに主催グループが会社組織になり、会場にコスプレが登場するようになってからのコミックマーケットは、テレビや新聞などのニュースにもしばしば登場するようになってきた。

コスプレというのは、コスチューム・プレイの略語である。一部のファンが、好きな漫画やアニメのキャラクターの衣装をして、会場内で同人誌を売ったり買ったりするようになったのだ。既存の漫画のパロディ作品の販売にたいして、著作権がらみの規制がかかるようになったこともあって、そのぶん手作りの衣装によるコスプレが盛んになったともいわれている。

二十数年まえには、出店参加者も漫画やアニメのファンだけではなくなっていた。内外の芸能人やミュージシャンなどのファンが作る、ファンクラブマガジンが加わったのだ。これにはワープロ専用機の普及も大きな役割を果たしている。数は多く

ックマーケットという項目に彼の名前が登場していることが分かって、さっそくそのページを読んでみた。

コミックマーケットの歴史というリンク先のページで、こんなことが分かった。

原田央男は、初期のコミックマーケット主催グループの四人のなかでいちばん人脈が広がったことからリーダーに決まったのだという。就任から五年めに主催グループのメンバーだったYにリーダーの座を託したあとは、Yともほかのメンバーとも交流を断っていたのが、四半世紀を経てYが病死、その通夜の席に現われた直後から、かつてYたちと作っていた同人誌「迷宮」のメンバーに復帰している。そうしてその数年後には、原田にとつてはYと同じくコミックマーケット創成期からの同人誌仲間であり主催グループの一員だったAが病没していた。

別のリンク先をいくつかを辿ってみて分かったのは、原田央男が、アニメ評論家として長年、別のペンネームで専門雑誌にコンスタントに記事を書いていて、何冊かの著書もあるということだった。ライターの仕事のほかに、美術系の大学や専門学校などで、アニメの歴史や技術などを講義する仕事を長く続けていることも分かった。

ふたたびWikipediaの「コミックマーケット」という項目に戻って、現在の漫画同人誌即売会のあれこれを読んでみた。

コミックマーケットの開催は毎年八月と十二月の二回、それぞれが三日間の日程で、晴海の東京ビッグサイトで行われている。これがメインストリームで、そのほかの都市でも不定期に開催されている。別の主催者が開催する大規模な漫画同人誌即売会もいくつかあるので、作ったものを売りたい側にも買いたい側にも、活用できるチャンスは年に何度も訪れるのだ。

頒布品として並べられる作品のジャンルも、かなり広くなっ

なかったものの、詩集や小説などの文芸の作品集も加わるようになっていた。

わたしがそういつたコミックマーケットの変遷を知ることになったのは、勤め先などで知り合った年下の漫画好きの女の子たちから聞かされたからだ。原田央男がどこで何をしているのかを知る機会はまったくなかった。

たくさんの月日が流れて消えた。わたしの交友関係も数えきれないくらいの入れ替わりをくりかえした。

萩尾望都や大和和紀などの好きな漫画家については、新しい単行本や掲載雑誌を時おり手に取ることはあったが、四十年後のいま現在まで、原田央男もコミックマーケットも、過去の彼方に遠ざかったままだった。夢のなかに、むかしの漫画同人誌即売会の会場と、当時の主催グループのリーダー、原田央男の姿が出てくるまでは……。

二〇一七年の春が終わりかけていた、その日。

明け方に見たその夢を思い浮かべているうちに日が暮れて、夕方に少し時間ができたので、ネット検索で原田央男という名前を入力してみた。

〈はらだてるお〉という文字列では、やはり本来の漢字には変換されなかった。

四十年経っても読みやすい名前ではないところは変わっていなかった。〈央〉という漢字は、辞書にはアキラとかヒデとかの読みかたも載っているのだが、テルとらうのは出てこない。だが、男の子の名前を漢字別に検索できるウェブサイトに、〈央彦〉で「テルヒコ」と読ませるような例が載っていた。まちがって届け出された読みかたではないのだ。

Wikipediaという百科事典のようなウェブサイトの、「コミ

ていた。

最初期からの創作漫画やアニメ関連が主流ではあったが、三十年ほどまえからの芸能関係のファンクラブマガジンや文芸の作品集のほかに、二十年ほどまえからは、アマチュアが作るさまざまな趣味の雑誌や本が、かなり心えているのだった。料理、園芸、裁縫、工作、釣り、モデルガン、アマチュア無線等々、列挙したらかなりの行数を占めてしまいうような、一般大型書店顔負けの多彩なジャンルの雑誌や本が登場している。

ステーションナリーと呼ばれる文房具類は最初期からあったもので、ペンケースやブックエンドなどもあり、紙でできたものだけが売られるわけではないことは知っていたが、かつてはTシャツくらいだった服飾品が、いまではスーツや子供服やシューズなどの幅広い品揃えになっていて、オリジナル楽曲のCD、ゲームソフト、模型、人形、日用雑貨等々、こちらも列挙にとまがない様相だ。

そういえば、十数年まえに友人の娘さんが「コミケにあったの」と言っていて、ハンカチを使った布表紙のちいさな絵本と、ピーズでアニメのキャラクターの顔を作った携帯電話用のストラップをくれたことがあった。「コミケ」というのは「コミックマーケット」の略語である。三十年くらいまえなら「コミケ」という略語で語られていたのだが、さらに短縮されたというわけだ。

いまのように何でもネットで手に入りそうな時代でも、フリーマーケットのように顔を合わせて売り買いができておたがいに話もできるというのは、やはり魅力なのだろう。海外からの来場者や出展参加者もふえているらしい。だが、一般の来場者は、会場に入るために何時間も列に並ぶことが常態化しているため、夏には熱中症で、冬には低体温症で動けなくなる者も少なくないという。

Wikipediaより、二〇一六年二月のコミックマーケットが参加サークル三万五千という、膨大な規模になっていることも記されていた。出店参加者はアマチュアだけでなく、出版社やパレル系などの企業のブースがいくつも設けられているのだから、巨大なフリーマーケットというよりもショッピングセンターのようだ。

わたしの夢のなかに出てきた、原田央男が主催グループのリーダーをしていた四十年まえのコミックマーケットは、参加サークルの数が四十くらいだった。首都圏外に本拠地のあるサークルは委託販売で参加していて、主催グループのスタッフが売り子をしていたのだから、実際に会場で同人誌やミニコミ誌を売っていたのは三十に満たないサークル数である。どこかで開催を知って会場に足を運んだひとの数は、その日の開会から開会まで出店参加していた友人の話では、トータルで五百人くらいということだった。

最近のコミックマーケットの来場者数は、一日に二十万人前後。三日間の合計が五十九万人という数値は、同じ年の埼玉県川口市の人口に相当する。

それにしても……。

わたしはふたたび、明け方に見た夢に思いを馳せていた。

なぜ、四十年もまえのコミックマーケットが、わたしの夢に出てきたのだろうか。

机に向かいながら、いろいろと考えていても心当たりがつかぬまま、何時間かが過ぎていった。

だが、寝るまえにベッドのなかで読む本を探しているときに、答を得ることができた。

まえの日に、わたしが萩尾望都の『ポーの一族』の続編、『春の夢』を読んでいたからだ。

が、同人誌に『ポーの一族』のパロディ作品、『ポルの一族』を掲載していたのも、四十年まえのことである。

夢をつかさどる女神は、『ポルの一族』を、わたしに読み返してもらいたかったのだろうか……。

わたしが何度となく読み返してきた萩尾望都の『ポーの一族』への愛着は、夢の世界に、その本編ではなく、遠いむかしの知り合いが描いたパロディ作品のほうを浮上させてくれたのである。

『ポーの一族』の続編を読んだわたしのだから、主人公のエドガーが登場する夢というのは無理かもしれないが、夢として見せてくれるのならパロディ作品絡みではなく、オリジナルの『ポーの一族』につながる場所や題材を選んでもらいたかった。

夢は深層心理の具象化したものだと言われているが、なぜ、このような不条理と矛盾が干渉してくるのだろうか。

パロディで連作を手がけていた当時の原田央男は、それらを精魂込めて完成させたと思うのだが、その作品がきっかけになってパロディ作品が氾濫するようになった漫画同人誌の世界にたいして、早々に見切りをつけているのだ。

わたしがこれから読み返そうと思っている『ポーの一族』本編のなかには、くたんのパロディに使われたシーンも少なからずあったりする。この四十年のあいだに何度か読み返したから、そのなかのいくつかはすでに思い出せている。

しかし、そのパロディ作品『ポルの一族』が掲載された漫画同人誌は、とっくのむかしにわたしの手元から離れているのだ。三十年ほどまえの引越しのとき、当時の友人にゆずった大量の漫画単行本のなかに含まれていたような気がする。

たとえそれがわたしの手元に残されていたとしても、青焼き

『ポーの一族』。

それは萩尾望都の初期の代表作であり、漫画家歴が五十年近くになる現在でもこの作家の代表作の筆頭に挙げられている。連作としては四十年まえに完結しているのだが、わたしが読んできた少女漫画のなかでは常にベスト5に入っていて、数年に一度は読み返したくなる作品なのだ。

何日かまえに、読みそびれている作家の本をネットで検索しているときだった。

書店のウェブサイトで『ポーの一族』の続編である『春の夢』が、今年の初めから少女漫画雑誌に連載されているのを知った。さっそく掲載号のバックナンバーを取り寄せて、その三冊が手元にそろったのが前日の午後だった。

本編のほうを読み返してから二年も経っていなかったから、すぐに続編のページを開いた。

『春の夢』の舞台は一九四〇年代のイギリスになっていた。本編の主人公の少年エドガーが、太平洋戦争の時代を生きる人々とかわり合う物語である。

『ポーの一族』の主人公はパンペラの一族で、十八世紀の半ばから現代に至るまでの、さまざまな時代に姿を現わしてゆく。一族の故郷はバラの花を栽培している田舎の村で、主人公もバラのエキスを食事がわりにとっている。抒情的でロマンチックな世界観のなかで、十四歳のまま歳をとらずに生き続ける主人公の悲哀と、それぞれの時代で得られるつかの間の友情や小さな幸せが、萩尾望都ならではの繊細でしなやかな美しさを持つ画風で展開されてゆく作品である。

『春の夢』が掲載されている雑誌の表紙には、〈四十年ぶりの続編〉というキャッチコピーがついていた。

萩尾望都の作品をデビュー当時から愛読していた原田央男

コピー刷りを製本したものであったから、四十年後のいまとなっては判読できるのかもあやしいものだ(同じころに発行されていた、萩尾望都パロディ総集編の一冊はオフセット印刷だったはずだが、既に売り切れていて入手できなかったのである)。

四十年まえの漫画同人誌には、青焼きコピーがよく使われていたものである。これは青写真の発展したもので、原稿の黒い部分が複写紙では青紫色になることで青焼きと呼ばれるのだが、現像液を使うので湿式コピーとも言われていた。複写紙は古くなると退色がすすんで、青紫がうすいピンク色になってゆく。

文字で読ませるミニコミ誌なら、ガリ版印刷とも呼ばれた謄写版印刷でも作れたのだが、これは鉄筆で書いたロウ引きの原紙にインクをのせて刷る方法で、太い線と細い線を併用する漫画には向いていなかったし、原紙の再利用ができないためオリジナルの画稿を残せないという点でも使えなかった。

出始めたばかりの乾式コピー、ゼロックスは、コピー代が高すぎて手が出なかったし、運営資金にだいぶん余裕のあるサークルでなければ、現在のようなオフセット印刷の同人誌を発行することはできなかったのだ。

文芸の同人雑誌でも、和文タイプで活字を組んだ印刷物をコンスタントに発行できるところは、そう多くはなかったはずである。四十年まえの商業雑誌や単行本は、活版印刷から写植印刷にシフトしていたが、アマチュアの作家たちには費用がかかりすぎて手の届かない世界だった(そついでいえば、コミックマーケットができるまえのことだが、わたしが和文タイプ印刷の小さな詩集を作ったとき、奥付の挿し絵を原田央男が描いてくれたこともあったのだ……)。

パソコンを一台と、それを買ったときのポイントカードに入ってくる金額で入手できてしまうプリンター、このふたつがそろえば誰でも手軽に同人誌が作れてしまう現代とは、状況があまりにもちがいます。

わたしの頭のなかでは、DVDの録画をスキップ再生するうちに、『ポルの一族』を購入した四十年まえのコミックマーケットの会場や、その三年まえに訪れた作者の自室の壁を埋めていた本棚などの、さまざまな場面が切り替わっていた。

夢のなかの彼、原田央男は、コミックマーケットの会場で詰り襟の学生服を着ていた。だが、同じ高校に通っていたころのわたしは学年が上の彼とは話をすることがなかったし、制服姿の彼を見た記憶がない。

夢をつかさどる女神は、気まぐれで、時代遅れで、歴史と美術の授業が苦手だったというか、世間知らずの子どものようなところがあるのだらう、たぶん……。

後日の付記

原田央男が（霜月たかなか）の筆名で出版している著書のひとつに、『コミックマーケット創世記』（朝日新聞出版 2008年発行）があったので、後日に書店のウェブサイトで購入した。

巻頭には献辞として、「今は亡き盟友・米澤嘉博に捧ぐ」という一文がある。コミックマーケット黎明期からの仲間の他界を機に、二年後に出版されていたのだ。

内容は、表紙のカバーに書かれている紹介文のとおりである。「コミックマーケット（コミケ）が日本のまんが史を変えた！創始者が70年代まんが黄金期のコミケ誕生秘話を初めて明か

り合ったミニコミサークル「水族館」から、彼らの発行する情報誌『裸心版』の印刷所を紹介されたため、多く売るためには多く刷るしかないという事で決定。依頼先の「共信印刷株式会社」は以来、同人誌印刷の工キスパートとなって業績を伸ばし、「コミックマーケット準備会がその縁で発注した『コミックマーケットカタログ』が開催のたび、まんが専門店に山と積まれるのが季節の風物詩のようになってしまった。

などと書きつつ僕が覚えているのは、初めてこの本の印刷を頼みに行った時に印刷所の人から、「……まんがドゥシンシ？」と、不思議な顔をしたことだったりするのだが。

霜月たかなか著

『コミックマーケット創世記』

（朝日新聞出版 2008年発行）

P 156～157より

後日の付記

萩尾望都の『ポーの一族 春の夢』が単行本化されたのは、雑誌での連載が終わってすべの二〇一七年七月である（小学館フラワーコミックスペースシャル）。

もう一度読み返したくなかったわたしがそれを手に取ったときには発行から何ヶ月かが過ぎていたが、同じ頃に別の店で買いためた少女漫画の文庫本『マダムとミスター2』（作画・遠藤淑子 白泉社 2005年発行）で、幸運なことに、霜月たかなか解説の文章にふれることができた。

す。有名まんが家を多数排出した「まんが同人誌」即売会の工ピソードが満載。この1冊なくして日本のまんが史は語れない！。

思いがけないことに、「コミックマーケット」初期の歴史を振り返るなかで、彼は、四十年まえにわたしが友人たちと作っていたミニコミ誌のサークル名と誌名を登場させていた。

律義で誠実な彼の本質がうかがえる文章にふれて、頭が下がる思いだった。さすががしさのある安堵感を味わうこともできる。

そのくだりをここに引用して、高校の先輩でもある彼への敬意と感謝の気持ちを表わしたい。

そうして第2回「コミックマーケット」の当口を迎えるまでに『迷宮』が作成したのが、『漫画新批評体系叢書 Vol.1 萩尾望都に愛を込めて』である。書名こそものしいけれども、内容はといえば「ポルの一族」のそれまでの総集編と書き下ろしの萩尾望都評論集で構成され、早い話が売れ線狙いの1冊。

「コミックマーケットの運営資金にも事欠く、「迷宮」の財政確立が目的の一つであった。」漫画新批評体系叢書、別冊モトのとも、増刊いちやもん、明大SF研オリジナル、MOB協賛、豪華合体号！」などと表紙に銘打たれているのも、出来たばかりの寄り合い所帯である「迷宮」を感じさせて微笑ましい。

ただ画期的であったのはそれまでの青焼きコピーに対して、表紙こそ鈴木哲也が熱筆をふるった多色刷りガリ版印刷であったものの、なかのページがオフセットで印刷されていることである。これは当時の活動を通して知

『マダムとミスター』は、遠藤淑子の代表作のひとつである。わたしが雑誌での連載と単行本で読んでいたのは一九九〇年代の後半だった。作品の舞台は『ポーの一族』と同じイギリスで、郊外にある古い屋敷で暮らす若い未亡人と執事の青年がさまざまな出来事に遭遇する、短篇連作のシリーズである。

「少女の奇妙な冒険」というタイトルがついた巻末の解説文は、6ページにわたる長さになっている。

途中からは、四十年まえに原田央男とその仲間たちが『迷宮』に執筆していた萩尾望都論にあったような、凛として繊細さをもつ雰囲気や文章としての様式美も垣間見えてきて、その時代を通り抜けてきた世代にはどこか懐かしいものがあるような気がした。

ここに引用する、解説文の冒頭部分では、遠い日の彼が萩尾望都や同じ頃に注目されていた少女漫画家たちの作品に親しんでいたことにもふれている。

わたしたちの前でさまざまな漫画家やその作品を語っていたときの、紳士的かつ真摯な眼差しと姿勢が、長い年月を経ても、そこにみずみずしく息づいているのを心からうれしく思った。

遠藤淑子（文中敬称略）の世界にいきなりお邪魔するにあたって、まずはこちらで作った、簡単な地図を示しておきたい。

なにしろこの世界が存在するのは少女まんがという、それだけでなく男にとっては不案内な宇宙である。

幸い「小鳥のギムナジウム」（白泉社文庫『天使です大』収録）という手掛かりがあって、あらためて指摘するまでもなくこの短編は、「小鳥の巣」を始めとする萩尾望都の初期作品に題材を取っている。1970年代にはこの萩尾望都、竹宮恵子、大島弓子といった、花の

FAN LETTER BOX

— MY 詩集の作品への感想募集 —
次の号に発表します

●書き方

掲載ページを参考にして、ご自身のお名前、作品の作者名、月号とページ、作品のジャンルと題名、感想文の順に書いて下さい。
感想を書く作品は、マイ詩集の最近の号（数か月以内）から選んで下さい。
詩や作詞についての考え方やご意見なども、ここで発表できます。
感想文の後に続けて書いて下さい。

●用紙と長さ

A4判の400字詰原稿用紙に横書き。ワープロ印字用紙も可。
長さ不問。感想の対象となる作品数（作者の数）は自由。
用紙の右上余白に、マイ詩集の同人番号を明記して下さい。

●受付期間

5月25日 - 6月25日（掲載：7月下旬 - 8月上旬発行の8月号）

●送り先

〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集8月号ファンレターBOX係
メール：登録アカウント@my-shishu.com
題名：8月号ファンレターBOX係

●注意事項

感想へのお礼だけを記した原稿や、自分の作品解説が中心の原稿は、掲載していません。
感想を下された方々も、今月号や1つ前の号などで作品を発表されていて、
自分宛ての感想が届くのを楽しみにしています。感想を下された複数の方々への
一括りのメッセージは不可です。一作一作を大事に考えて下さいますようお願いいたします。



24年組」と総称される女性まんが家たちが少女まんがを変革し、男性読者をも獲得。また萩尾望都ファンクラブに端を発するコミック・マーケットが始まり、現在に至るまんがファンダムが形成されたのもこの時期である。そのことを踏まえて、「小鳥のギムナジウム」を読み、また「友人が始めた同人誌サークルに参加させてもらう事になり……」（白泉社文庫『王室スキャンダル騒動』あとがき）という遠藤本人の記述を参照させてもらうなら、そこから彼女の世界の発端が、うっすらとはあるが見えてくるだろう。

そういう70年代とそれ以降のまんが状況にインスパイアされて、1985年に「慶長スラプスティック」でデビューを飾った作家。とりあえずその位置付けることによって、僕はようやく遠藤淑子の世界のドアをノックすることができるといつわけた。

それはほかならぬ僕自身が、ただ一度その時期に少女漫画に接近（ニアミス？）したからであり、70年代以後それは再び、視界から消え去ってしまう。だから遠藤作品にそれら「花の24年組」の作品の影響を感じたり、あるいは絵柄に、当時の陸奥A子や篠崎まことといった作家による「乙女チック路線」の残り香を嗅ぎ取ったりしても、それ以上を現在に至るまでの少女まんがの文脈のなかで読み取ることができないわけで、そういう意味では地図として、いたって不完全であることも明かしておかなければならぬだろう。

それでもそんな地図の切れ端すらなければ、僕など約四半世紀ぶりの少女まんがとの遭遇にあたって、旧式の宇宙船よろしく宇宙のなかをさまよっていたに違いな

いの中から。

さて、では、そこから何が見えてくるのか。
表題作の「マダムとミスター」についていえば、未亡人のマダム・ジョンストンと執事のグラハムが絶妙のボケとツッコミを演じる、饒舌にしてデリケートなコメディである。舞台も当然、日本でなくイギリスというのは、例えば少年まんがで外国を舞台にその国の少年が活躍する……などという作品がほとんどありえないのとは対照的に、見事なまでに「少女まんがしている」というべきだろうか。

毎回起きる事件は赤ん坊騒動あり犯罪サスペンスあり、また幽霊談ありと実に多彩。異国のドラマを鮮やかに少女まんがに変換してしまう作者の手並みに唸らされる一方で、まんがや小説、あるいは映画、テレビドラマなどの膨大な影響からそれらがインスパイアされたであろうこともうかがえて、月並みな言葉でいえば遠藤淑子＝文学少女の印象も強く感じる。印象ついでにいえば、作者が慣れ親しんできたそういう物語世界にマダム・ジョンストンとグラハムという「触媒」を投げ入れ、そこで起こる化学変化を楽しむ気に見つめている、遠藤淑子自身の眼差しすら感じられるほどだ。

遠藤淑子『マダムとミスター2』

（白泉社文庫 2005年発行）

霜月たかなが解説文

「少女の奇妙な冒険」P 390～391より

◆ブルーパール様

2月号P52 自由詩

『お豆腐屋さんのラッパ』

最近こういった物売りの音、めったに聞かれなくなりましたね。

うちの周りでは、なぜだか夏頃に時々、「さお竹～」の音声はやってきますが、年間を通じてくるのは廃品回収のアナウンスぐらいで、風情がいまいち……。

私が子供の頃は、まだ焼き芋屋さんか回っていたりして、もっと、なんというか温かみのある風情のある音が沢山あったなあ、と、懐かしくなりました。

◆岡田 尚様

2月号P53 自由詩『……』

『……』がなんとも言えない

題名になっている気がしました。

家庭円満の秘訣は奥さんを立てること、とよく言われますが……。でも、無言で食べられるのも困るというか、何かひとことでも言ってよ、と言いたくなるというか……。それよりは、婉曲にでも美味しくないとかならそのことを伝えて欲しいというか……。苦笑)

いつも料理を作っている立場では、つついきびしく言いたくなってしまうのかもしれませんが、いつもは炊事をしない人が作った料理というのは、いまいちながらも、別の意味で美味しく感じる、そういうこともあるのです。

家庭内の、"あるある"的なひとコマ。これが、最後の〈言う勇氣は／なか〉という、どこかの方言っぽさを含んだような温かい表現で、うまい具合に丸くおさまっていそうなどころもあって、思わず笑ってしまいました。

◆おおら和男様

2月号P54

自由詩『夏の前の雨』

〈昔は〉という書き出しから始まる、まだ幼かった頃の記憶。世界は〈絵のように〉〈きれい〉でした。

思い出していたのは、ただの雨ではなく、世界にかかっていた魔法でした。僕も同感の感想を抱く年令になりました。いろいろありましたね。

2月号P70では拙作へのご感想をありがとうございました。

◆坂井まゆ子様

2月号P9/P39

テーマ 冬のティータイム

花・雪・風

作詞『春待ち月』

僕は結婚できていません(笑)が、兄二人がきちんと結婚して、両親はお義父さんお義母さんになりました。

見ていると苦労は絶えないようですが幸せそうです。そんな人生の晩年もいいものですね。

◆滝田一三六様

2月号P14

テーマ 冬のティータイム

連作自由詩(三部作)

『時間よ戻れ』

まだ青かった主人公を未来から見ているのは、題名と言葉にしろうじて残る過去形の語尾。話の中の主人公は煩悶の最中。

その青さを切り捨てられないところに、若い主人公と、過去を美しく思う若さを残した今の彼が、二重写しになって見えます。

時を重ねても、人は悟れないものですね。

◆神崎 進様

2月号P12

テーマ 冬のティータイム

自由詩『命の証し』

冬の日の午後の、少しまったりとした雰囲気良く表現されていると思います。また、第2連に登場する、雀たちと自分をうまく対比させて表現されているところも良いと思います。

◆滝田一三六様

2月号P15

テーマ 冬のティータイム

連作自由詩(三部作)

『時間よ戻れ II あいつの背中』

思春期のひとコマ、青春の甘酸っぱい思い出。素直に生の感覚でいきいきと表現されていて、とても好感の持てる作品です。

◆雪した桜様

2月号P29 テーマ 花・雪・風

作詞『別れ酒』

短い作品ですが、詩的な雰囲気も深く、コンパクトにうまくまとまっていると思います。

◆中窪利周様

2月号P55 自由詩/短歌『恋歌』

いつもの恋歌シリーズですね。とても短くてシンプルですが、奥が深い作品ですね。

◆小田ともひさ様

2月号P77

自由詩(返詩)

『奇跡』

この作品もまた、短くてシンプルな作品ですが、偶然と偶然が重なり合って奇跡となり、雄大なスケールの生き方や世界が生まれるのだと思います。

広がりを感じさせる作品で、とてもいいと思います。

2月号P97

テーマ 冬のティータイム

自由詩『外は雪』

雪の降る日は、とても静かでいいですね。

何もなくても、時間だけがゆっくりと流れていく、こういった、まったり感もいいですね。

2月号P72では、感想をありがとうございました。

今度は、私の10番目の詩集を探してみてください

◆現世乱歩様

2月号P83

自由詩(返詩)

『にくしみX2』

一種の言葉遊びですが、こういう掛け算は、前向きでいいですね。

内容がとてもいいです。

◆涼木由真様

2月号P8/P35

テーマ 冬のティータイム 作詞

『ぬりえ きせかえ おままごと』

あどけなく始まり、切なさで終わる、そんな歌。

ココアも、初めは甘く、終わりのほうではほろ苦い。

何だか、しんみりした気分になりました。

2月号P46/P89

作詞（返詞）

『ハンサムな彼女

—スパイスおばさんの歌—』

うーん、スパイスおばさんの特徴を、ステキにとらえて下さって、主題歌にしたい歌ですね。

ありがとうございました。

◆美 都様

2月号P53 自由詩『白樺峠』

タカの渡りが見られる白樺峠。初めて知りました。

タカも白鳥もカモも、みんな渡り鳥として生きているんですね。

2月号P71では、ご感想ありがとうございました。

◆岡田 尚様

2月号P53 自由詩『……』

あなたの作った料理が、とても美味しかったので、口惜しくて「まずい」と、奥様はおっしゃったのでは？

ふと、ある川柳を思い出しました。

作者名がわからないので、そのまま引用することはできませんが、内容は、夫が作る料理は妻の味を超えないように匙加減をするのがよい、ということを書いたものです。

2月号P71の北野麒麟朋様へのメッセージ、岡田 尚様11月号P67『……』宛てでした。すみませんでした。

◆北野麒麟朋様

11月号P66

自由詩『恋のなぜなぜ』

同感です。みんなが、そんな生活が出来たら、「お医者様、あなたが生活(……)出来なくなりますよ」などと、返したいような気分です。(笑)

◆はこべ様

2月号P85 自由詩（返詩）

『ボーイフレンド』

小学生だった子が、さっそうとした少年になっていて、自分を憶えていてくれた。

嬉しいですね。

私は、前にビデオ屋さんで出会った5歳の男の子のことを思い出しました。仮面ライダーで熱弁を振っていた変なおばちゃんのことを、憶えてくれるかしら？

ステキな返詩をありがとうございました。

◆涼木由真様

2月号P8/P35

テーマ 冬のティータイム 作詞

『ぬりえ きせかえ おままごと』

ストーリーが心に響く作詞だと思います。

だれでも小さい頃に見た母のやさしい笑顔、耳にした子守歌は、忘れられないものなのでしょう。何才になっても。

◆聖川 泉様

2月号P31

テーマ 花・雪・風
作詞『待っている命』

輪廻転生、春夏秋冬、すべてが回転しているのかもしれない。人の命も。

輪廻転生はないという科学者もいますが、いずれ私たちは、すべての物質も含めて、土や水などに還ったりして、宇宙の構成物質になるのですから、全体で一つですよ。

◆片野ちえみ様

2月号P45/P81

作詞（返詞）『世界がまわる』

地球はまわり続けると信じます。

世界は平和になると信じます。

ひとにぎりの人間に左右されている今の時代が、もどかしいけれど。

平和を願う大多数の人間で守り続けていきたいですね。

1060年代のミュージカル『ラ・マンチャの男』の挿入曲で、岩谷時子氏の訳した『見果てぬ夢』という歌があり

ます（原題：The Impossible Dream）。この訳詞の主旨のように、自分の信じている道をどこまでも信じて生きていきたいです。

◆岡田 尚様

2月号P53 自由詩『……』

私は味音痴なのかも。どんなものを食べてもうまく食べられます。というより、腹が満たされていけばいいだけなのかも。

いつもは妻には「うまい、うまい」と言って食べています。

私は若いころ、子供のために食事を作ったことはありますが、妻には、食べさせたことはないような気がします。

食べさせたらきっと「まずい」と言われるでしょう。でも、一度、妻が風邪で寝込んだ時、おかゆを作ってあげたような気も……？ はっきり憶えていません。

◆おおら男様

2月号P54 自由詩『夏の前の雨』

わかります。

わかります。

すごくわかります。

子供のころが、なつかしく思い出されました。私たちが小さかったころは、まだ自然が汚されていませんでした。

今は山の奥までコンクリートで整備され、その一方で、草木が荒れ放題になっているところもあり、田舎は見放されているような……。

RE: FAVORITE WORKS

青い瞳の地球

いくら 両手を伸ばしてみても
この指先は 月の輪郭には
触れることすらできないけれど……

月鏡
麗

こうして 腕をひろげ
大地に臥していると
私は 地球を抱いているよう

愛のぬくもりのような万有引力は
やさしく 強く
死ぬまで私を離さない

いつの日か
爪先から影が剥がされてゆくように
永久(とわ)の光にさらわれて
私は 小さな星となっても

落ちていきたい もう一度
落ちていきたい 懐かしい瞳の中……

悲しいほど
青い 青い 地球よ

(56) (56)

返歌・返詩 作品募集

P96で募集している自由テーマの作品とは別に発表できます。

お気に召した作品に対して、応答する内容で書かれた作品を募集します。
元の作品は、マイ詩集の最近の号(数ヶ月以内)から選んで下さい。

用紙1枚目余白に、元の作品の月号、ページ、タイトル、作者名を明記。

短歌・俳句……1首/1句でも連作でも可

作 詞……20字×30行以内

自 由 詩……20字×25行以内

短詩(ショートポエム)、長編自由詩、エッセイ、物語などは、
行数不問です。

元の作品とちがうジャンル(作品形式)で書かれた作品も歓迎します。
同ジャンル

作詞⇒作詞、自由詩⇒自由詩、短歌・俳句⇒短歌・俳句

別ジャンル

自由詩⇔作詞、作詞⇔短歌、短歌⇔自由詩、その他、
エッセイなどの長文作品も含まれます。

元の作品は1作品が基本ですが、作者がちがう2つの作品から
1つの返歌・返詩を作る方法もOKです。

● 受付期間 5月25日 - 6月25日(掲載:7月下旬 - 8月上旬発行の8月号)

● 送り先 〒332-0015 川口市川口4-3-18

マイ詩集8月号 返歌/返詩係

海よ

海よ

大空の下に広がる

母なる海よ

あなたのぬくもりでつつまれていたときが

わすれられない

あなたの大きな愛を

わすれる事は出来ない

もう一度もどりたい

あのパールピンクに輝く

あなたの中に

深く深く しずんでいきたい

もう一度

あなたの愛につつまれない

だが ふと 思っ時がある

知らず 知らず 少しずつ

あなたに近づいているのではないかと

小田ともひさ

春の夢でも

涼木由真

恨まないで 私のこと
ひと目惚れ 本気なのよ
ごめんなさいね 貴女から
奪うつもりじゃ なかったの

雪の夜の 田舎の駅
最終電車 待っていたの
ふたりしか いなかった
それだけで それだけで……

つかのまの 春の夢でも
かまわない
ああ 春の夢でも

見つめた時間の
長さじゃないのよ
それが 恋

恨まないで 私のこと
あいつはね 甲斐性なし
もったいないわ 貴女には
もっといい人 現われる

野原にしか 咲けない花
踏まれてきた ただの雑草
ふたりとも 貧乏なの
それでもね それでもね……

つかのまの 春の夢でも
かまわない
ああ 春の夢でも

尽くした時間の
長さじゃないのよ
それが 恋

雪の下のパンジー

四谷 文

あなたが帰ったその後で
雪降る庭に降りてみた
風に吹かれたパンジーは
降り積む雪に折れそうで
雪と花なら綺麗だと
言った貴方は罪作り

寒さに弱いパンジーも
雪に当たるとつらいもの
貴方は私を何だと思う？

冷えきった外を避けるうち
読んだ本だけ増えていく
互いに家の事はあれ
恋する想いは本の中
誰もが羨むあの人と
恋をしているはずなのに

寒さに弱いパンジーも
雪に当たるとつらいもの
貴方は私を何だと思う？

(2月号P31)





阿呆の真髓

北野隣朋

秀才と言われた

僧侶がおった

ある時僧侶のところへ

阿呆と呼ばれる坊主が

遊びにきた

阿呆の坊主が言った

「ねえ教養って何の役に立つの」

秀才と言われた僧侶は

阿呆と言われた僧侶を見直した

(2月5日p54)

考える

小田ともひさ

ある星の綺麗な夜

かえるが夜空を見上げて考えた

「あの星空は

どこまでひろがっているのだろう」

いつまでも いつまでも

夜空を見上げて考えていた

結局わからず 寝てしまった

ある日のアリを見ていた犬が考えた

「このアリはどうしてこんなに

小さいんだろう」

「もっと小さいものもあるのかな」

「アブラ虫も小さいな」

「葉タニも小さいな」

「もっともっとちいさいもの

あるんだろうな」

昼になっておながすいて

犬はそこを立ち去った



午後3時

雪した桜

たゆたうー不安

小田ともひさ

つかの間のシエスタ

アフタヌーン・ティーの香り

静寂な時間が流れる

タイムトリップの夢の中

冬の精霊たちが光彩を放つ

一瞬に心に精気が蘇る

モナリザの薄いベールの奥にある

微笑みの深さを感じながら

決して待つてはくれない時を

夢幻に追いかける

ノスタルジィな午後3時

いつものコーヒーショップの片隅を

コーヒー一杯たのんで陣どった

本をパラパラめくり テーブルの上に

イスに背もたれて 目をつむる

コーヒーの香り 流れるメロディー

きくともなしに

たゆたう時に 身をゆだね

時をあやつる妖精たちは微笑んで

われをいざなう

時空をこえて

宇宙のはてに

空くの中にとけてゆく

(2011.03)

刹那

春の日のティールーム

坂井まゆ子

二月の半ばの お客様
熱いココアに マシュマロを
溶かして飲んでる 女の子
ひとりのため息 ティールーム
渡しそびれた チョコレート
かばんの中で 眠ってる

二月の雪は ぼたん雪
はかなく溶ける 春の夢

三月はじめの お客様
お砂糖入れずに カフェオレを
だまって飲んでる 男の子
ひとりで思案の ティールーム
渡しそびれた 第二ボタン
卒業式の 帰り道

三月の風 南風
切なく香る 春の夢

四月の雨の日 お客様
ふたつの注文 ワインゼリー
あの女の子と 男の子
ふたりが向き合う ティールーム
偶然出会って 雨宿り
駅前の店で ティーターム

四月の雨が 降り注ぐ
いま花ひらく 春の夢

ふしぎなカフェ

川島理生子

十一月のお客様
長いグレーのコート
の紳士
ホットコーヒーを頼みます
今年少し早いですねと
雪の砂糖をひとかけら

十二月のお客様
赤い服を着たおじいさん
甘いココアを頂きます

疲れた時にはこれが一番
来年もまた頑張れそうだよ

一月一日のお客様
にぎやかな団体七名様
少しお酒も入ります

あんまり羽目をはずさずに
まだまだ今年これからですよ
カフェはあなたのすぐ傍で
いつでもお待ちしております

(2月10)

マイ詩集同人のみなさまへ
編集部からのお知らせ



入会希望の方：
作品一点をお送り下さい。
入会申し込み書類をお届けします。
再入会の方は、年間同人費のほかに入会金を申し受けます。
マイ詩集 最新号希望係

エッセイ、小説などの長文を发表したい方：
募集中のテーマ以外の一般長文作品は有料掲載になります。費用は、特集号の1ページあたりの基本額でお見積もりします。
返送用切手貼付の封筒を添えて原稿を郵送して下さい。
マイ詩集 作品企画係

マイ詩集のご感想・意見・リクエストなどのお手紙は、いつでも歓迎しています。
发表作品の係や他の係へのご用件を含まない場合は「編集部 熊谷ゆき」宛发表用その他の係で書き添える場合は別紙へのご記入をお願いします。
住所変更届は郵便でお送り下さい。
「マイ詩集 住所変更係」に封書か葉書でお願いします。
(マイ詩集 熊谷ゆき)

一つの号で二作品以上を发表したい方：
もう一人分の同人申込みで发表スペースが一年分保証されます。(入会金不要)
追加分の費用は入会継続の時期によって変わります。入会継続案内書をごらんの上でご送金をお願いします。
マイ詩集 同人申込係

次号だけ二作品以上を发表したい方：
原稿用紙の余白に「发表保証追加希望」を明記して追加の二作品につき、二、五〇〇円を送金して下さい。
マイ詩集〇月号
作詞(または自由詩・短歌俳句)
发表追加係

作品送稿の前に最新号の募集案内をご確認下さい。
みなさまのご意見・編集事情等によって募集する内容が変更される場合があります。なお、发表用の原稿用紙の余白や裏面を連絡スペースに使うことは、ご遠慮下さい。
ご質問・ご相談・お問い合わせの際には入会継続時の案内書もご参照の上で「マイ詩集〇〇係の質問在中」等の表書きをお願いします。
* 发表したい作品についての
ご質問・ご相談をされる場合は、その作品を(一部分でも)同封して下さい。
* 同人同士の合作を希望される方には可能な範囲でお取次ぎをします。
* 希望内容を具体的に記して「ご希望内容」にご相談下さい。
* 同人の方の发表用メール送稿作品は非公開アカウントで登録者のみを受理しています。
* ご使用条件や登録方法については郵便で「メール送稿案内係」にお問い合わせ下さい。

あなたの特集号を発行します

あなたの記念日や 特別な人への贈り物に… 国会図書館収蔵

詩・作詞・イラスト・写真・小説・エッセイ・短歌・俳句 その他
個人作品特集号のマイ詩集発行をお引受けします

作品の未発表/既発表は不問。作品点数・レイアウトデザイン・写真やイラストのご注文・お手元に置きたい冊数などは、ご相談に応じます。

基本+オプションセット **A**：¥48,000

モノクロ7~8P 20冊まで配本無料

小特集セット **S**：¥38,000

モノクロ4~5ページ 20冊まで配本無料

MY詩集での同人経験のない方は、作品を拝見させていただき、同人と同等以上の実力があると認められる方を対象とします。

特集 A：¥68,000~ B：¥78,000~ 小特集 S：¥58,000~

セット内容には、いずれも一般的な編集レイアウト印刷のサービスが含まれています。

- * ページ数や配本冊数などをセット内容よりふやしたい場合は、お申し込みの際にご相談下さい(増ページ費用は作品内容や文字数によって若干の差があります)。
編集デザインの全容をお任せいただく場合は、無料で2ページ前後の増量も可能です。
- * 1ページに収録可能な作品数は、毎号の本誌の各コーナーに準拠します。
長文の1ページあたりの字数も、本誌の掲載作品を参考にして下さい。
ご自身のオリジナル画稿(写真やイラスト)の掲載を希望される場合は、サイズや掲載点数によって別料金がかかる場合もあります。
既発表作品については、所載誌名と発行年月をお知らせいただければ、掲載可能です。
- * 特定の月号に特集希望の場合は、先着のお申込み優先、月号指定がない場合はお申込み順です。
特集号見本誌はP.97でご案内しています。

特集号 掲載のお申し込み

- * 編集デザインそのほかのご希望を箇条書きしたお手紙と一緒に、掲載希望作品の原稿をまとめて郵送して下さい(要:返送用切手貼付の封筒。ワープロ印字可。テキストデータをCD-ROMまたはUSBメモリでお借りできる場合は、配本時に返却します)。
掲載希望作品は、後日の作品追加や改稿等の変更も可能です。
- * 作品を拝見させていただいた上で、費用のお見積もりと並行して編集デザインのご相談に進みます。

〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集 特集号係

- * メールでのお申し込みは題名を「特集号係」として、作品は別便で何通かに分けて送信して下さい。画像の送稿には別アドレスで対応しますので、あらかじめお問い合わせをお願いします。

TEL: 048-241-7750 MAIL: editorsroom5@my-shishu.com

マイ詩集 バックナンバー ON SALE

♣ 1998年 特集テーマ

- 1月号 (VOL.300) この想いは木枯しに負けない
- 3月号 (VOL.301) ふたりでお茶を
- 5月号 (VOL.302) 萌え出づる蒼い恋
- 7月号 (VOL.303) 真珠の涙
- 9月号 (VOL.304) 天使と小悪魔
- 11月号 (VOL.305) 月は優しい夜の魔術師

♣ 1999年

- 1月号 (VOL.306) 聖夜☆あなたと雪と音楽と
- 3月号 (VOL.307) 優しく歌ってあげる…
- 5月号 (VOL.308) 5月の森色オルゴール
- 7月号 (VOL.309) 農
- 9月号 (VOL.310) 銀河
- 11月号 (VOL.311) 駅

♣ 2000年

- 1月号 (VOL.312) DOLL
- 3月号 (VOL.313) DREAM
- 5月号 (VOL.314) GAME
- 7月号 (VOL.315) RAIN
- 9月号 (VOL.316) 電話
- 11月号 (VOL.317) 薔薇

♣ 2001年

- 1月号 (VOL.318) 卵
- 3月号 (VOL.319) 波
- 5月号 (VOL.320) 翼
- 7月号 (VOL.321) VOICE
- 9月号 (VOL.322) COLOR
- 11月号 (VOL.323) BIRTHDAY

♣ 2002年

- 1月号 (VOL.324) CHRISTMAS CARD
- 3月号 (VOL.325) 鍵
- 5月号 (VOL.326) 窓
- 7月号 (VOL.327) 林檎
- 9月号 (VOL.328) 太陽
- 11月号 (VOL.329) 鏡

♣ 2003年

- 1月号 (VOL.330) 三日月
- 3月号 (VOL.331) 雪
- 5月号 (VOL.332) 記憶
- 7月号 (VOL.333) 空気
- 9月号 (VOL.334) 水
- 11月号 (VOL.335) 名前

♣ 2004年

- 1月号 (VOL.336) 月
- 3月号 (VOL.337) 星
- 5月号 (VOL.338) 海
- 7月号 (VOL.339) 夜／作詞入門コミック総集編
- 9月号 (VOL.340) 壁
- 11月号 (VOL.341) 伝説／MY詩集創刊号復刻作品集

♣ 2005年

- 1月号 (VOL.342) 自由／遠い町 創刊号2号詩画選集
- 3月号 (VOL.343) 猫／家族／遠い町 童話選集
- 5月号 (VOL.344) 桜／メロディ
- 7月号 (VOL.345) 紫陽花／リバイバル
- 9月号 (VOL.346) 雲／プライド
- 11月号 (VOL.347) コスモス／木霊

♣ 個人作品特集号 ♣

- 仲田修子 作詞集 (1999年 1月号)
- 森京詞姫 作詞集 (1999年 3月号)
- 第1回MY詩集作詞コンテスト入賞作品発表号 (1999年 5月号)
- K・咲・マーホ 作詞集 (2001年 1月号)
- 滝田一三六 詩集 (2001年 3月号)
- 過負荷 詩集 (2002年 5月号)
- ちよこ伊バスタ 短編小説「ごましおの心」 (2004年 9月号)
- 草凧 唯 詩集「夜の手帖 II」 (2005年 7月号)
- Y U K I 随想 吉屋信子少女文学「はるかなる私たちの花物語」 (2006年 5月号)
- Y U K I 随想 吉田とし少女文学「青いノート一冊目」 (2006年 7月号)
- 中田ひかり 作詞集 (2007年 7月号)

- 鳴海杏士 作詞集「LET'S GO FANTASIA」 (2008年 3月号)
- ワルサーP38 詩集 (2009年 9月号)
- 中山めぐみ 詩・短編小説「リねん」 (2009年11月号)
- 結戸敦子 詩集「少しものたりないうたた寝のような」 (2010年 7月号)
- 現世乱歩 詩集「ティータイム」 (2011年 1月号)
- 鳴海杏士 作詞集「風と十字架」 (2012年 9月号)
- しまだきみこ 作詞集「Sixteen」 (2012年11月号)
- Sho - T 作詞集「Early Years」 (2013年 3月号)
- 姿美由紀 詩と作詞集「花と地球とわたしたち」 (2013年 5月号)
- 石田真紀子 作詞集「花宵 花衣」 (2014年 1月号)
- 羽根田れい 作詞集「銀巴里」 (2014年 5月号)
- 雪した桜 詩集「詩の季節」 (2014年11月号)

ご希望の月号の指定と送金日のお知らせをお願いします。

VOL.402まで 1冊:送料共700円 3冊:送料共2100円 5冊:送料共3500円
VOL.403以降は頒価が流動的になりますので、事前のお問い合わせをお願いします。

〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18 マイ詩集 バックナンバー係

editorsroom5@my-shishu.com 「バックナンバー係」

銀行振込: 三井住友銀行高円寺支店 普通1279529

♣ 2006年 特集テーマ

- 1月号 (VOL.348) クリスマスソング／扉
- 3月号 (VOL.349) ジョーカー
夜のチョコレート
花物語／少年時代
- 5月号 (VOL.350) 瞳／回転木馬
- 7月号 (VOL.351) 影／図書館
- 9月号 (VOL.352) 嵐／果実
- 11月号 (VOL.353)

♣ 2007年

- 1月号 (VOL.354) 灯／S F
- 3月号 (VOL.355) フルツ／星物語
- 5月号 (VOL.356) 緑野／船出
- 7月号 (VOL.357) 霧／パズル
- 9月号 (VOL.358) 砂／秘密
- 11月号 (VOL.359) 31 (短歌)／夜明け

♣ 2008年

- 1月号 (VOL.360) ナイフ／旧友
- 3月号 (VOL.361) 約束／部屋
- 5月号 (VOL.362) 春の嵐／赤と黒
- 7月号 (VOL.363) 夏への扉／夜景
- 9月号 (VOL.364) 夏祭り／ソネット(14行詩)
- 11月号 (VOL.365) 19世紀／三部作(連作)

♣ 2009年

- 1月号 (VOL.366) シャーロック・ホームズ
ホワイトクリスマス
- 3月号 (VOL.367) 灯色の童話／ララバイ
- 5月号 (VOL.368) 四季物語／デュエット
- 7月号 (VOL.369) 妖精国の住民達
母への手紙
- 9月号 (VOL.370) 古書店
9月のバースディソング
- 11月号 (VOL.371) 和菓子／ミステリー

♣ 2010年

- 1月号 (VOL.372) 冬の星座／ビジネス
- 3月号 (VOL.373) 雪の日／PC
- 5月号 (VOL.374) 好きな詩人／愛犬
- 7月号 (VOL.375) 画家に捧げる詩
雨の日のラブソング
- 9月号 (VOL.376) ポーカーフェイス／テレフォン
- 11月号 (VOL.377) ギリシア神話／同窓会

♣ 2011年

- 1月号 (VOL.378) 聖夜／川
- 3月号 (VOL.379) 城／70年代
- 5月号 (VOL.380) 少女小説／秘密
- 7月号 (VOL.381) わたしのマザーグース／雨の日
- 9月号 (VOL.382) 人魚姫／ふるさと
- 11月号 (VOL.383) 踊り子／タイムマシン

♣ 2012年 特集テーマ

- 1月号 (VOL.384) 映画館／クリスマスツリー
- 3月号 (VOL.385) 天使／家族
- 5月号 (VOL.386) 花物語／小さな嘘
- 7月号 (VOL.387) アリス／下町の夏
- 9月号 (VOL.388) クイーン／洋酒
- 11月号 (VOL.389) 赤毛のアン／パスワード

♣ 2013年

- 1月号 (VOL.390) 鬱／クリスマスプレゼント
- 3月号 (VOL.391) 最後のバレンタイン／レコード
- 5月号 (VOL.392) 砂丘／アルバム
- 7月号 (VOL.393) 月の裏側／スクラップブック
- 9月号 (VOL.394) おせっかい／夏の星座
- 11月号 (VOL.395) 友だち／庭

♣ 2014年

- 1月号 (VOL.396) ジョーカー／島
- 3月号 (VOL.397) ラジオ／きょうだい
- 5月号 (VOL.398) 五月／遺産
- 7月号 (VOL.399) 帽子／夢と現実
- 9月号 (VOL.400) わたしのマザーグース／探偵
- 11月号 (VOL.401) 化粧／ララバイ

♣ 2015年

- 1月号 (VOL.402) 江戸／Xmasファンタジー
- 3月号 (VOL.403) マジック／スパイス
- 5月号 (VOL.404) 花と蝶の季節
- 7月号 (VOL.405) 金／三部作
- 9月号 (VOL.406) 夏休み
- 11月号 (VOL.407) ティータイム／四部作

♣ 2016年

- 1月号 (VOL.408) New Year's Holliday／詩物語
- 3月号 (VOL.409) 夢／冬のソネット
- 5月号 (VOL.410) 幼なじみ／春の散文詩
- 7月号 (VOL.411) 夏物語／あの声が聞こえる
- 9月号 (VOL.412) 花火／最後にひとつだけ
- 11月号 (VOL.413) 隠れ家／オノマトペ

♣ 2017年

- 1月号 (VOL.414) クリスマスの思い出
サビで始まる歌詞
- 3月号 (VOL.415) 告白の方法／町の歌
- 5月号 (VOL.416) 好きな本／応援歌
- 7月号 (VOL.417) デュエットソング／返歌・返詩
- 9月号 (VOL.418) ララバイ／もうひとりの私
- 11月号 (VOL.419) バースディソング／若かったあの頃

♣ 2018年

- 2月号 (VOL.420) 冬のティータイム／花・雪・風

マ イ 詩 集
POETRY and LYRICS
Brand-new works

2018 5月号 VOL.421
MEMBERS INDEX
including VISITORS, Lyric INSTRUCTOR and Art MEMBERS

THEME WORK... (Dream in spring) (Stay with me) Re-printing... (Rep)

COMMENTS and GUIDANCE TABLE..... Page 4 to 5

Member	Works Page	Member	Works Page
ふじお	3/43 (Dream in spring)	坂井まゆ子	39 (Stay with me)
	37 (Stay with me)	川島理生子	12 (Dream in spring)
	60		77
小田ともひさ	6/47 (Dream in spring)		88 (Rep vol.420)
	23	神崎 進	13 (Dream in spring)
	37 (Stay with me)	ちくち うしめ	14 (Dream in spring)
	45	いかり あさこ	15 (Dream in spring)
	78	現世乱歩	16 (Dream in spring)
	81 (Response work)		43
	85 (Response work)		79
涼木由真	8/49/83	滝田一三六	23
	(Dream in spring) (Response work)	闇 耀映	25 (Dream in spring)
	41	小林智恵	26 (Dream in spring)
		雪した桜	28 (Dream in spring)
坂井まゆ子	10/49/89		56
	(Dream in spring) (Response work)		87 (Rep vol.420)

Member	Works Page	Member	Works Page
珠夢湖	31 (Stay with me)	吉沢弘子	50
聖川 泉	33 (Stay with me)		57
月鏡レイ	35 (Stay with me)	月ノ宮華月	51 (Rep since1999)
	59	ワルサーP38	54
	81 (Rep vol.420)		63
四谷 文	35 (Stay with me)	プールパール	56
	77	岡田 尚	57
	83 (Rep vol.420)	中窪利周	58
Sho-T	39	おおら和男	58
	(Stay with me) (Dream in spring)		76
有海治雄	40	仲倉詩織	59
泉川正樹	41	サラ寛美	60
	50	浅尾長房	62
片野ちえみ	45	冬木りた	64 (Dream in spring)
北野麟朋	47	海 也	91 (Rep since2004)
	85 (Rep vol.420)	絵美里☆鳥星	98 (Dream in spring)
	97		

次のMY詩集 8月号 (422号)

原稿メ切……6月25日

バックナンバー・リスト……P.92 - 93

個人作品特集号申込案内……P.90 デモCD制作 INFO&既刊案内……P.53

同人専用 INFO……P.91 原稿募集一覧……P.96

MY詩集同人・入会のご案内……P.96

表紙 …… 蛭田賢一 Kenichi Hiruta

〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18 MY詩集 編集部

Phone&Fax 048-241-7750

編集発行人・熊谷ゆき Yuki Kumagai

editorsroom5@my-shishu.com

http://my-shishu.com

マイ詩集 8月号 (VOL.422) 発表作品送稿ルール

◆ 作品形式

自由詩……20字×25行以内(たて書き)
 作詞……20字×30行以内(よこ書き)
 短歌……連作2〜10首前後まで(たて書き)
 俳句……連作4〜20句前後まで(たて書き)

◆ 用紙は、A4判400字詰原稿用紙

または、A4判ワープロ用紙(文字サイズ18ポイント以上)
 または、A4判ワープロ用紙(文字サイズ18ポイント以上)
 ◆ 自由詩と作詞の行数には、題名・作者名・空行を含みます。
 第1行に題名、第2行下方に作者名。
 本文は、第3行から書き始めて下さい。

◆ ひとつの号に、どの作品形式でも、何作品でも発表できます。

作品の数が多く場合は、優先順位を原稿の余白に記して下さい
 (スペースの都合で無理なときは、それに従います)。
 ・ 初めて作詞をする方は、本誌P51、52を参考にしてください
 ・ 歌詞の1番2番のフォームを整えて下さい。
 ・ 25行を超える自由詩、三部作・四部作等については、
 本誌P20を参照して下さい。

課題テーマ作品の募集は、本誌P21を参照して下さい。
 作品形式や行数などの送稿ルールが毎月変わります。
 同人のみなさまのリクエストを随時反映していきますので
 ご希望のテーマ名などをお知らせ下さい。

◆ 原稿用紙右上余白に、4つの必要事項を明記して下さい。

①〇月号発表用 ②同人番号 ③本名 ④自由詩/作詞等の種別

◆ 受付期間：5月25日～6月25日

掲載号は7月下旬〜8月上旬発行の8月号(予定)
 送り先：〒332-0015 川口市川口4-3-18

マイ詩集 8月号 自由詩 発表係
 作詞 発表係
 短歌/俳句 発表係

◆ 編集内容へのご意見・感想、発表したい作品についてのご相談
 ひとつの号で2作品以上を発表する方法、同人同士の合作希望
 住所変更、配本追加希望、メール送稿、その他については、
 本誌P91「編集部からのお知らせ」のご参照をお願いします。

数学的恋愛

北野麟朋

答えを叫びたいのに

必要以上にこぼりわけて

答えしかみえなくなる



マイ詩集の購読

バックナンバーについては「マイ詩集社発行・マイ詩集何月号」のご指定で、書店からのお取り寄せ注文ができます(2013年1月号から2015年1月号まで注文可能です)。
 最新号および定期購読については、編集部へ頒価をお問合せの上でお申し込みをお願いします。

マイ詩集同人募集

自由詩、作詞、短歌、エッセイ、小説、イラスト、写真などを発表したい方は、作品2点と本誌の感想文をお送り下さい。
 入会金4000円、年間同人費17000円です。
 再入会を希望される方もこちらで受け付けます。
 〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集 新人係

マイ詩集の原稿を募集している係

詩物語(長編自由詩・三部作等)……………	P.20
テーマ作品(詩・作詞・俳句・短歌・小説・エッセイ等)……………	P.21
俳句/短歌(連作可)……………	P.24
作詞ワークショップ……………	P.40
ファンレターBOX……………	P.75
返歌/返詩/返詞……………	P.80
自由詩/作詞……………	P.96

自由テーマの小説その他の募集規定外作品

【同人】【読者】不問。作品を拜見させていただいた上で有料掲載のご相談にお答えしています。
 掲載費用には、特集号(P.90参照)の1ページあたりの基準が適用されます。原稿返送用切手貼付の封筒を添えて作品を郵送して下さい(メール連絡可)。
 〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集 作品企画係

作詞/自由詩/短歌/小説その他の個人作品集

【同人】【読者】不問(P.90参照)。掲載希望作品を同封して、編集デザインのご希望等をご相談下さい(メール連絡可)。
 〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集 特集号係



春の陽射しの中で

絵美里☆鳥星

寒さに怯えていた心に
神様の愛が届いた
花が咲いて
春風が吹いて
太陽が暖かくなって

氷の心も溶けました
新しい帽子もできたから
ちょっと出掛けてみましょうか

小鳥の音がする青空
桜の公園
菜の花畑
野の花が咲く小径
四ツ葉のクローバーが見つかりそう

優しい瞳をした人々と
すれちがうたびに心が安らぐ

かなしみを共にしてきた人達と
今は喜びをわかち合うために
私はここで
春の陽射しに包まれている